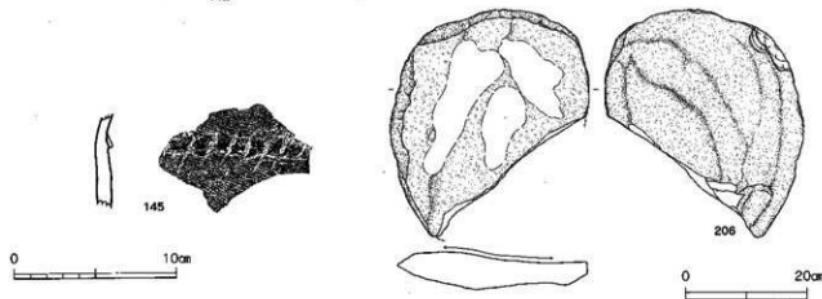
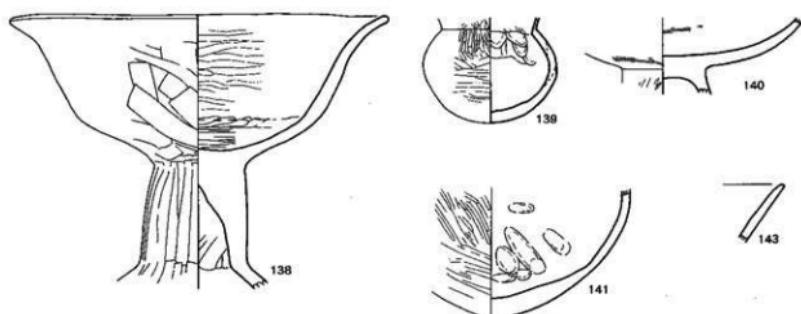
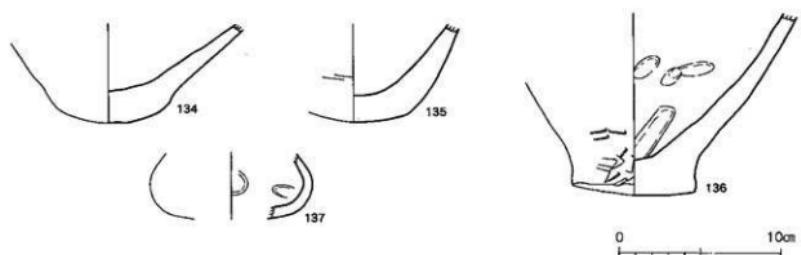


- |                      |  |
|----------------------|--|
| 1 暗褐色土 (Hue10YR3/4)  | 飼池軽石粒 (2~10mm) が混入し、粘性が強い。                       |
| 2 黒色土 (Hue7.5YR3/1)  | 飼池軽石粒 (2~3mm) が混入し非常に粘性が強い。<br>ごくわずかであるが、炭化物を含む。 |
| 3 黒褐色土 (Hue10YR2/3)  | 飼池軽石粒 (2~3mm) が混入し、粘性が強い。                        |
| 4 黑褐色土 (Hue7.5YR2/2) | 飼池軽石粒 (2~3mm) が混入し、粘性が強い。<br>3よりやや明るい色調である。      |

第16図 横市中原遺跡 C区 SA2実測図 (S=1/40)



第17図 横市中原遺跡 C区 SA1・SA2出土遺物実測図  
(SA1 134~137、SA2 138~146・206) (S=1/3 206はS=1/8)

る。内面はヘラ状工具によるナデを施す。140は高坏の坏部である。内外面とも風化が著しいがミガキが施されていたと思われる。141は壺の胴部から底部である。底部は丸底であり、黒斑が見られる。外面は風化気味であるがミガキを施し、内面はナデで全体的に指揮えが見られる。142は高坏の口縁部から坏部である。口縁部がわずかに外反しながら伸びている。内外面ともナデ後、斜め方向のミガキが施されている。143は高坏の口縁部である。外面には黒斑が見られる。144は甕の口縁部であり、外面はススが付着している。145は貼付刻目突帯を持つ壺の頸部である。内外面とも斜め方向のハケ日を施している。146は底部が平底の壺である。外面はヘラナデ、内面はナデを施し、指頭痕も見られる。206は大型の石皿である。中央部に凹面を持つ。擦り痕も一部に見られる。利用石材は輝石安山岩である。

### 中世の遺構と遺物

#### 小溝状遺構（第18図）

中世以降の崩跡と思われる小溝状遺構を第II層（文明軽石層）上面で検出した。桜島文明軽石は調査区北部に分布していたが、小溝状遺構として最も残存状況がよく、明瞭なラインが確認できたのはD19・D20・E19・E20・F19グリッドにまたがる北端部であった。平面的に平行して走る桜島文明軽石が残る部分が畠の基底部で、その間の桜島文明軽石を混入する黒色土を歛間としてとらえた。畠地に降灰した桜島文明軽石を掘り下げて歛を作ったため、歛間は桜島文明軽石を混入する黒色土となつたものと思われる。

小溝状遺構は後世の耕作等の影響を受けていたためか部分的に不明瞭な部分もあるが、大半は東西方向に平行して走るが、わずかに南北方向に走る小溝状遺構も認められる。小溝状遺構の溝の長さは約60～600cm、溝幅は約20～40cmを測る。

小溝状遺構が連続する箇所を選んで土層断面を図化（第18図）したが、この時点での小溝を形成する以前の小溝が存在する可能性がでてきた。そこで小溝状遺構完掘後、トレンチを入れ、下位の畠の痕跡を探したが、遺構の構造上良好に検出することができなかった。そこで面上に小溝間を5cm削り、精査を行ったところ、桜島文明軽石を埋土とする小溝状遺構が検出された。

桜島文明軽石混黒色土埋土の小溝下位から桜島文明軽石埋土の小溝が確認されたことから、畠が桜島文明軽石で被災した後に復旧作業を行っていたものと推測される。

遺物については、土器が数点出土したが小片のため風化はしていない。

#### 時期不明の遺構

ここで記述する遺構については、遺構形態や埋土状況からみてある程度時期の推定は可能であるが、決定要因となる遺物の出土状況がないことから時期不明の遺構としている。遺構は、第VII層上面で検出した土坑6基とピット群である。

#### 土坑

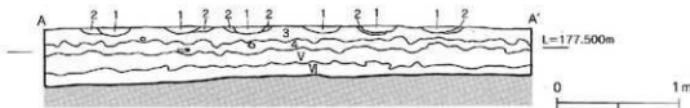
##### S C 1（第19図）

S C 1は調査区の南側、I 12グリッドで検出した。平面プランは長軸推定約1.76m、短軸約1.38mの不定円形を呈し、検出面から最深部までは約0.38mを測る。埋土は御池ボラ混黒色土が自然堆積している。用途については不明である。遺物は出土していない。

##### S C 2（第19図）



小溝状遺構断面図 ( $S = 1/200$ )



- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 1 黒褐色土 (Hue7.5YR3/1)  | 埋没した小溝を復旧した小溝の埋土。桜島文明軽石を含み、バサバサしている。   |
| 2 明褐灰色土 (Hue7.5YR7/1) | 小溝に堆積した桜島文明軽石。   |
| 3 黒褐色土 (Hue7.5YR3/1)  | もとは基本層序第IV層。中世の耕作の影響のため、擾乱を受けていると思われる。粘性がなく、サラサラしている。わずかに御池軽石粒(2mm以下)および桜島文明軽石を混入。 |
| 4 灰褐色土 (Hue7.5YR4/2)  | もとは基本層序第IV層と第V層。中世の耕作の影響のため擾乱を受けていると思われる。やや粘性があり、御池軽石粒(2mm以下)を混入。                  |
| V 暗褐色土 (Hue10YR3/3)   | 基本層序第V層  |
| VI 黒色土 (Hue7.5YR2/2)  | 基本層序第VI層   |

小溝状遺構断面図 ( $S = 1/40$ )

S C 2 は調査区の南部東側、I 1 3 グリッドで検出した。平面プランは長軸約1.44m、短軸推定約1.06mの橢円形を呈し、検出面から最深部までは約0.64mを測る。埋土は御池軽石混黒色土と御池軽石混黒褐色土が自然堆積している。用途については不明である。遺物は出土していない。

#### S C 3 (第19図)

S C 3 は調査区南部東側、I 1 3 グリッドで検出した。S C 2 に一部切られている形で検出した。平面プランは長軸約0.92m、短軸約0.86mの円形を呈し、検出面から最深部までは約0.44mを測る。埋土は御池軽石混黒色土が自然堆積している。用途については不明である。遺物は出土していない。

#### S C 4 (第19図)

S C 4 は調査区の南部東側、S C 2 の南約1.2mに隣接し、I 1 3 グリッドで検出した。平面プランは、長軸推定約1.64m、短軸約1.38mの円形を呈し、検出面から最深部までは約0.76mを測る。埋土は御池軽石混黒色土が自然堆積している。壁面をほぼ垂直に掘り込み、床面はほぼ平坦である。用途は形態から貯蔵穴の可能性もあると思われる。遺物は出土していない。

#### S C 5 (第19図)

S C 5 は調査区の中央部西側、H 1 4 グリッドで検出した。平面プランは長軸約1.21m、短軸約1.01mの不整形円形を呈し、検出面から最深部までは約0.73mを測る。北側と東側にそれぞれ1つずつピットが穿たれている。埋土は御池軽石混黒色土が自然堆積している。用途については不明である。遺物は出土していない。

#### S C 6 (第19図)

S C 6 は調査区のほぼ中央部、H 1 7 グリッドで検出した。平面プランは長軸約1.39m、短軸約1.37mの不整形を呈し、検出面から最深部までは約0.77mを測る。埋土は御池軽石混黒色土が自然堆積しており、最深部付近には御池軽石が密集する部分が見られた。北側と南側にそれぞれ1つずつピットが穿たれている。用途については不明である。遺物は出土していない。

#### ピット群

調査区内で、A・B区同様、土坑の他に多数のピットを検出した。大きさにはかなりのばらつきがあり、掘立柱建物跡の柱穴としてまとまるものは確認できなかった。埋土の状況は自然堆積したものである。そのうち一部については、樹木の根穴の可能性も考えられる。

## 2 包含層出土の遺物

遺構に伴わない遺物が、御池軽石層上面の第V・VI層から多量に出土した。

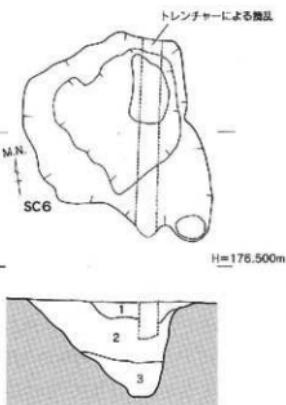
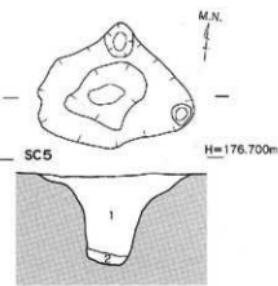
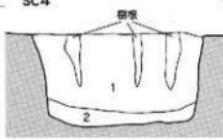
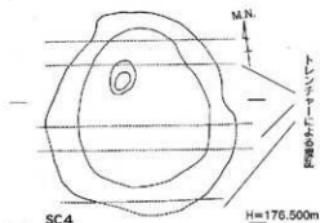
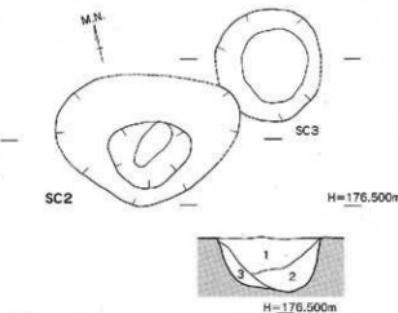
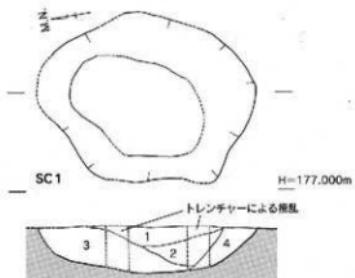
遺物は、縄文時代後期から晩期にかけての浅鉢・深鉢、弥生時代前期の壺、または古墳時代中期から後期にかけての壺・壺・高环などの土器器が出土している。

また、石器では石鏃、石斧、石錐、磨石、敲石、スクレイパーなどが出土している。なお、個々の詳細については、後出の観察表(p111~p118)に記している。

#### (1) 縄文土器 (第20図~第29図)

ここでは出土土器を時期や形態・文様等によってI~XII類に分類した。I類は後期の土器で、II~XII類は晩期の土器であると思われる。各分類ごとに説明を加えていく。

#### I類 (第20図 4~14)



0 1 m

第19図 横市中原遺跡 C区 SC1・2・3・4・5・6実測図 (S=1/40)

後期の上器を一括した。文様により2類に分類できる。

A 貝殻腹縁による連続刺突文を施すもの (4~9)。

4~8は波状口縁を呈し、4・7・9は内外面に貝殻条痕を施す。また、9は貝殻腹縁による連続刺突文を3列施している。

B その他の土器を一括した (10~14)。

1 斜め方向の3条の沈線文の上に縱方向に連続する刺突文を施す深鉢の口縁部付近と考えられ内面に横方向の貝殻条痕を施すもの (10)。

2 頸部に連続する横方向の刺突文を施す深鉢である。刺突文の下には横方向の沈線文も施される (11)。

3 口縁部が内傾した浅鉢である。口縁部には2条の沈線を施すもの (12)。

4 小型深鉢の口縁部で平行凹線文を2条巡らすもの (13)。

5 無文の浅鉢と思われる口縁部 (14)。

II類 (第20図 15~23)

口縁部に突帯が巡る深鉢を一括した。突帯の種類により2類に分類できる。

A 内傾した口縁端部と屈曲部に刻目突帯を巡らせるもの (15~19・21)。

18・19は小破片であるが、同類と考えられる。21は口縁部の突帯が貼付されないか、もしくは剥離したものと考えられ、屈曲部の突帯にのみ4cm間隔程度のごく浅い刺突(刻み)が見られる。

B 無刻目突帯を巡らせるもの (20・22~23)。

23は突帯下部に孔列文が見られる。

III類 (第20図 24)

24は補修孔(焼成後、穿孔)をもつ無文土器。

IV類 (第20図~第21図 25~34)

口縁部を肥厚させた口縁帯を有する深鉢形土器 (25~34)。

A 口縁帯下部に未貫通の孔列をもつ孔列文土器 (25~29)。

B 肥厚した口縁帯をもつ土器 (30~34)。

32と34は器形や口径、器面調整、胎土、ススの状況等、類似点が多く、同一個体の可能性がある。

V類 (第21図~第22図 35~40)

精製浅鉢を一括した。

A 黒色磨研土器 (35~39)。

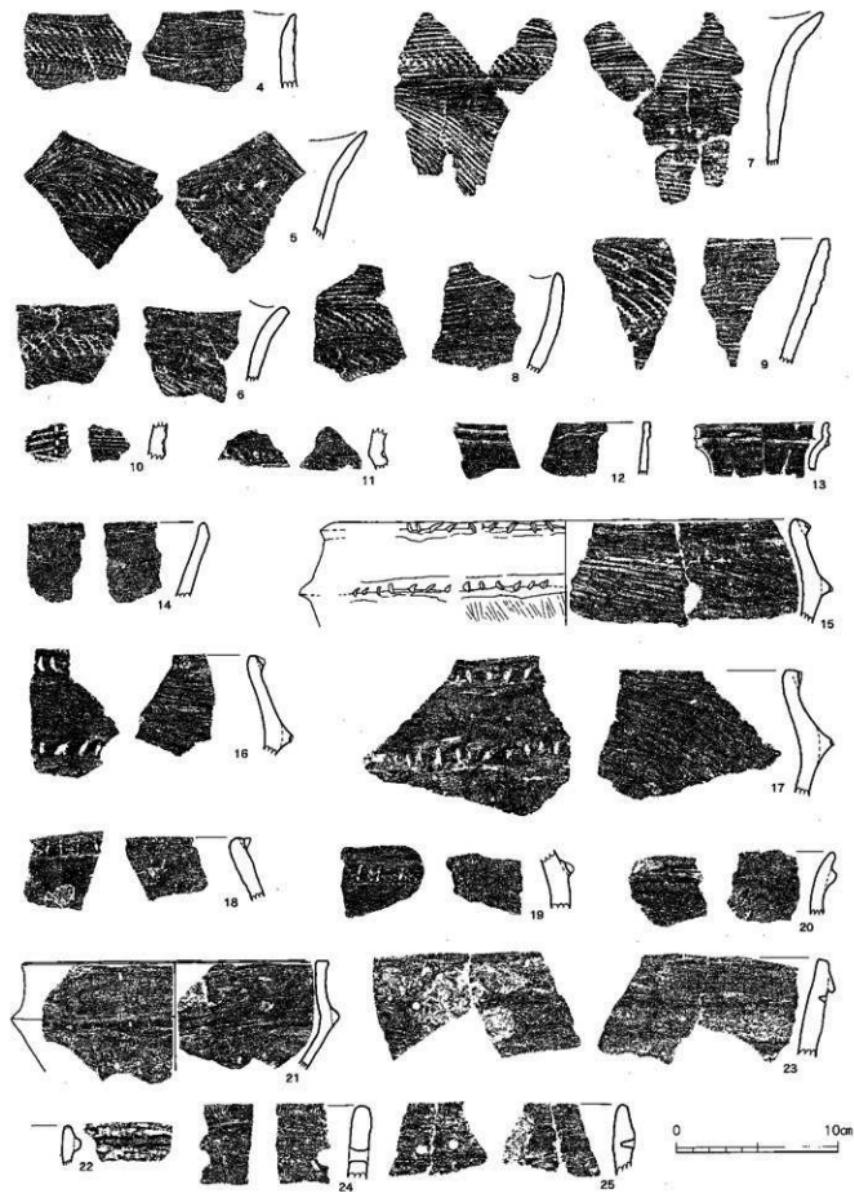
35と36は同一個体である。内外面ともミガキを施し、口縁部が屈曲して短く外反する。37は肩上部で屈曲し、口縁部が外反するもので、肩部に赤色顔料が付着している。38・39は丸底で、外面はミガキが施されている。

B 腹部で屈曲し、内外面ともミガキを施すもの (40)。

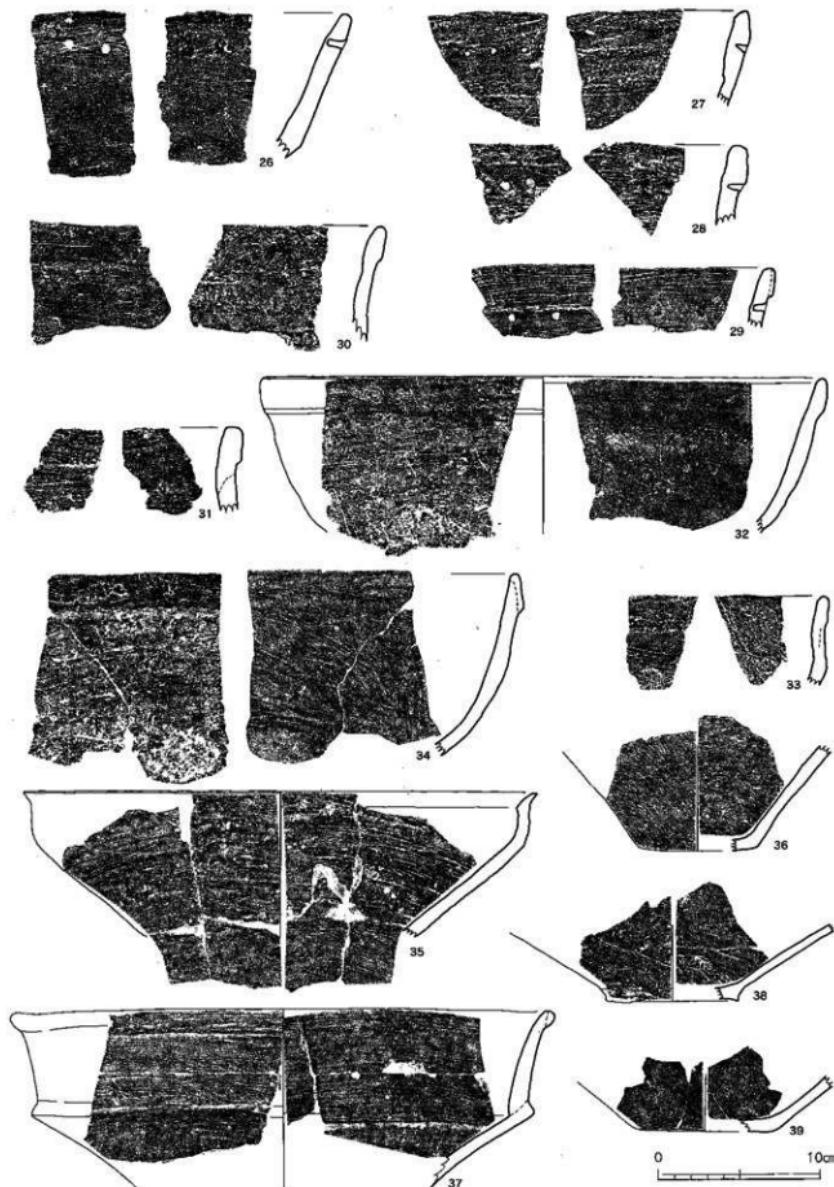
VI類 (第22図 41~50)

粗製浅鉢を一括した。

A ヒレ状突起を持つもの (41~44)。



第20図 横市中原遺跡 調文土器実測図(1) (S=1/3)



第21図 横市中原遺跡 棚文土器実測図(2) (S=1/3)

41は脇部が「く」の字に屈曲し口縁部下部に明瞭な稜を持つ。42は内外面に工具による横方向のナデ、口唇部に横方向のミガキを施している。43は口唇部直下に1条の沈線を施している。

B 小型の浅鉢で脇部が膨らむもの (45~50)。

45・46は口縁部端部が外反する。45は内外面とも横ナデを施している。46は内外面とも横方向のミガキを施し、内面には黒変が見られる。48は脇部が屈曲せず膨らみ、脇部上部外面に1条の沈線を巡らしている。

VII類 (第22図~第24図 51~71)

粗製浅鉢形の組織痕土器を一括した。

1 脇部下半に組織痕が見られ、その部分の器壁は口縁部に比べて薄く仕上げられ、あたかも口縁部が肥厚しているような印象を受けるという特徴をもつもの(51~55・58・60~62・64・67)。

2 口縁部から組織痕が見られ、器壁の厚味に変化が見られないもの (56~57・59)。

56・59は恐らく同一個体であろう。

3 組織痕土器の脇部下半~底部付近を一括した (63・65~66・68~71)。

VIII類 (第25図~第26図 72~86)

器壁の厚い深鉢を一括した。

A 口縁部が肥厚し、わずかに外傾しながら立ち上がるもの (72~78)。

74・75・78は内外面に条痕を施している。

B 口縁部がやや外反するもの (79~81)。

79は外面と口唇部にミガキを施し、全体にススが付着している。81は内外面にヘラ状工具によるナデを施している。

C 脇部を一括した (82~86)。

83は外面は縦方向の粗いミガキ、内面は丁寧な横ナデを施している。

IX類 (第26図~第27図 87~97)

器壁の薄い深鉢を一括した。

A 口縁部が外反しながら延びるもの (87~89)。

89は内外面ともヘラミガキを施している。

B 口縁部がやや外傾し、外面に条痕を施すもの (90・91)。

C 口縁部を持つもの (92・93)。

D 脇部を一括した (94~97)。

94は脇部がわずかに屈曲し、口縁部がやや外反しながら延びる。内外面とも横方向の条痕後、ナデを施している。95~97は外面に条痕を施し、95は粘土のつなぎ目が見られる。

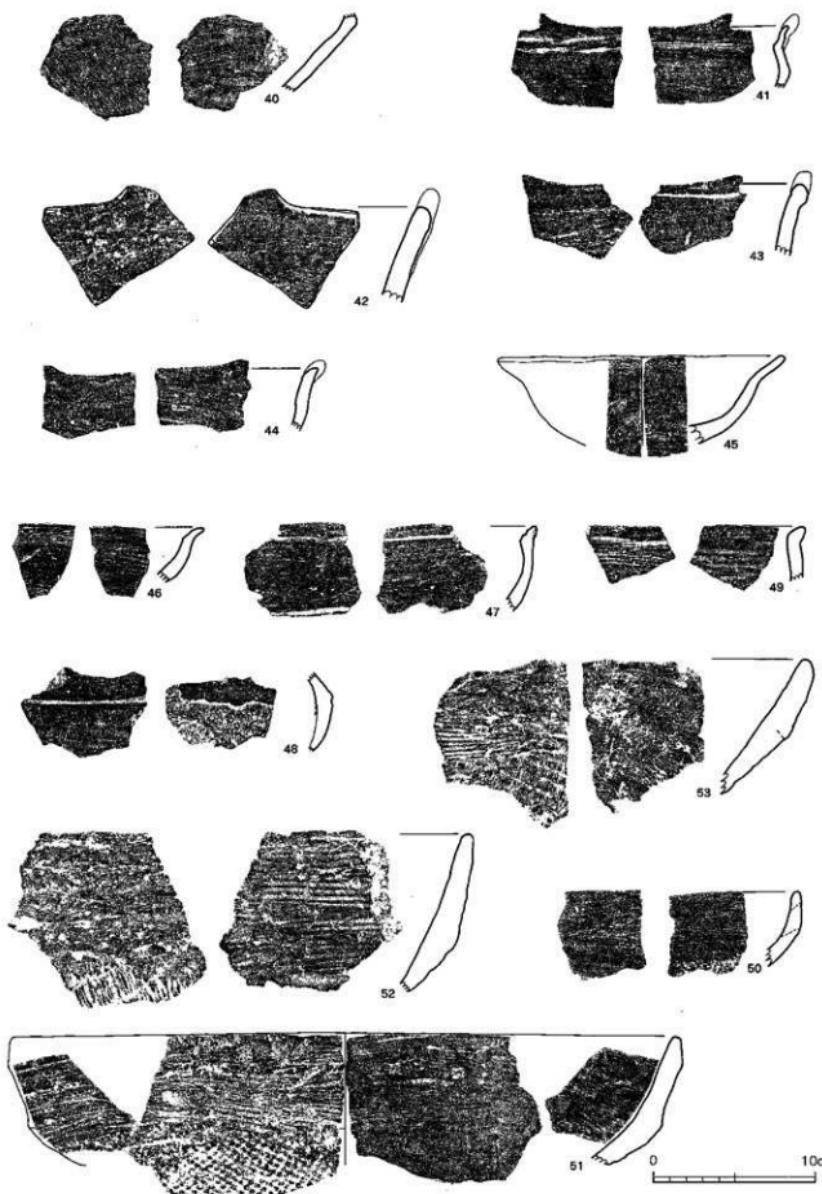
X類 (第27図 98~111)

深鉢の底部を一括した。

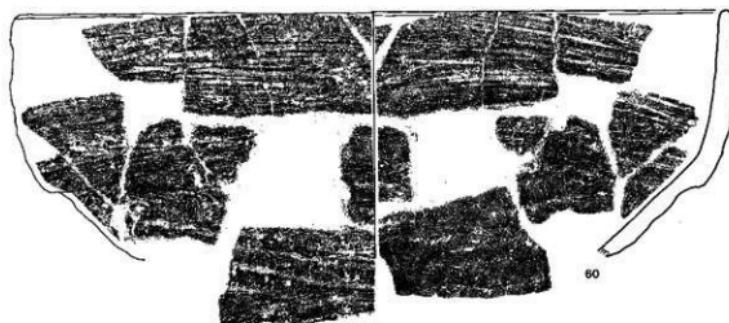
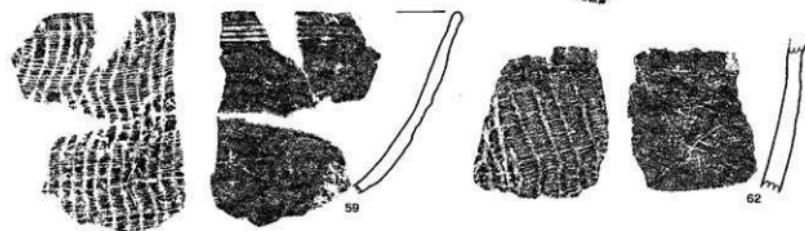
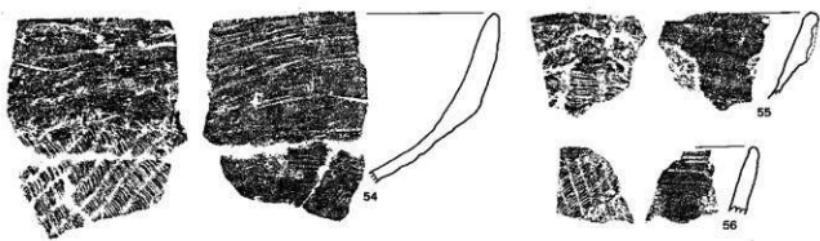
A 平底を呈するもの (98~109)。

1 端部が張り出し、脇部が開きながら立ち上がるもの (98・99)。

2 端部が張り出さず、脇部が開きながら立ち上がるもの (100~104)。

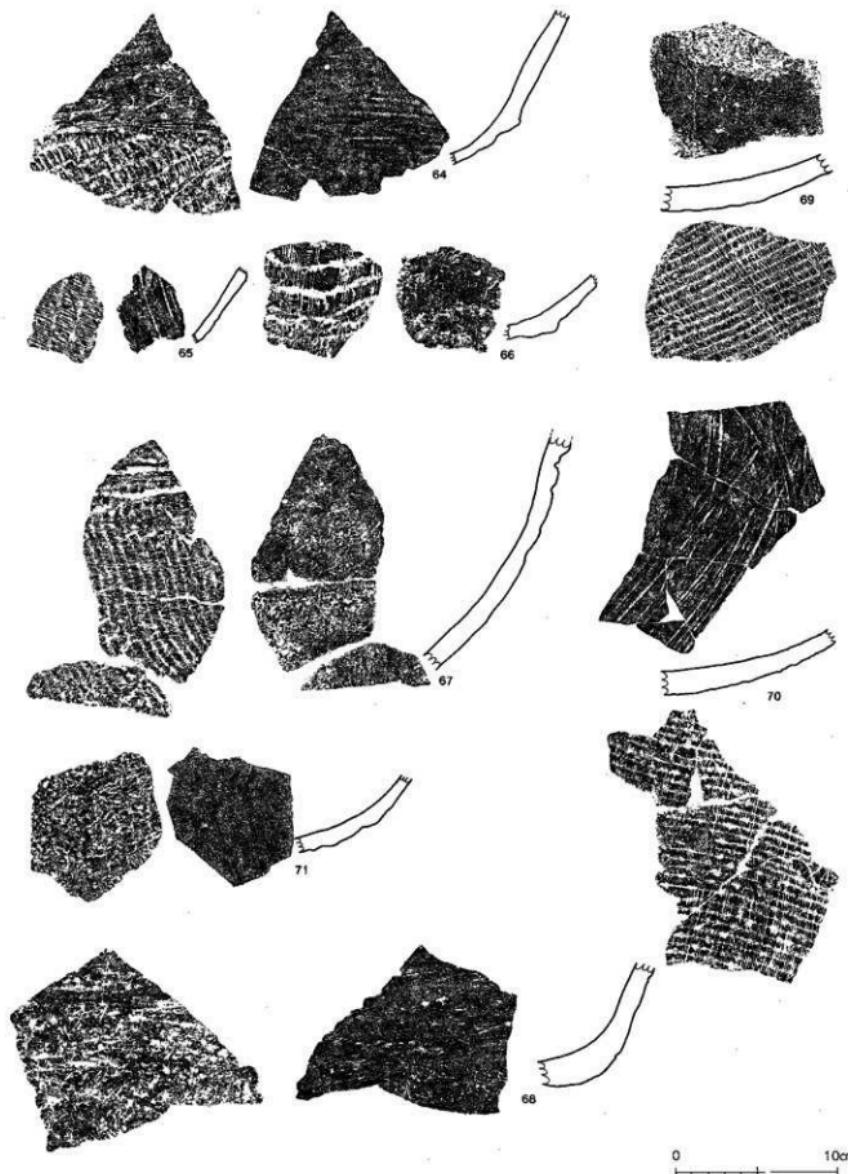


第22図 横市中原遺跡 鐛文土器実測図（3）（S=1/3）

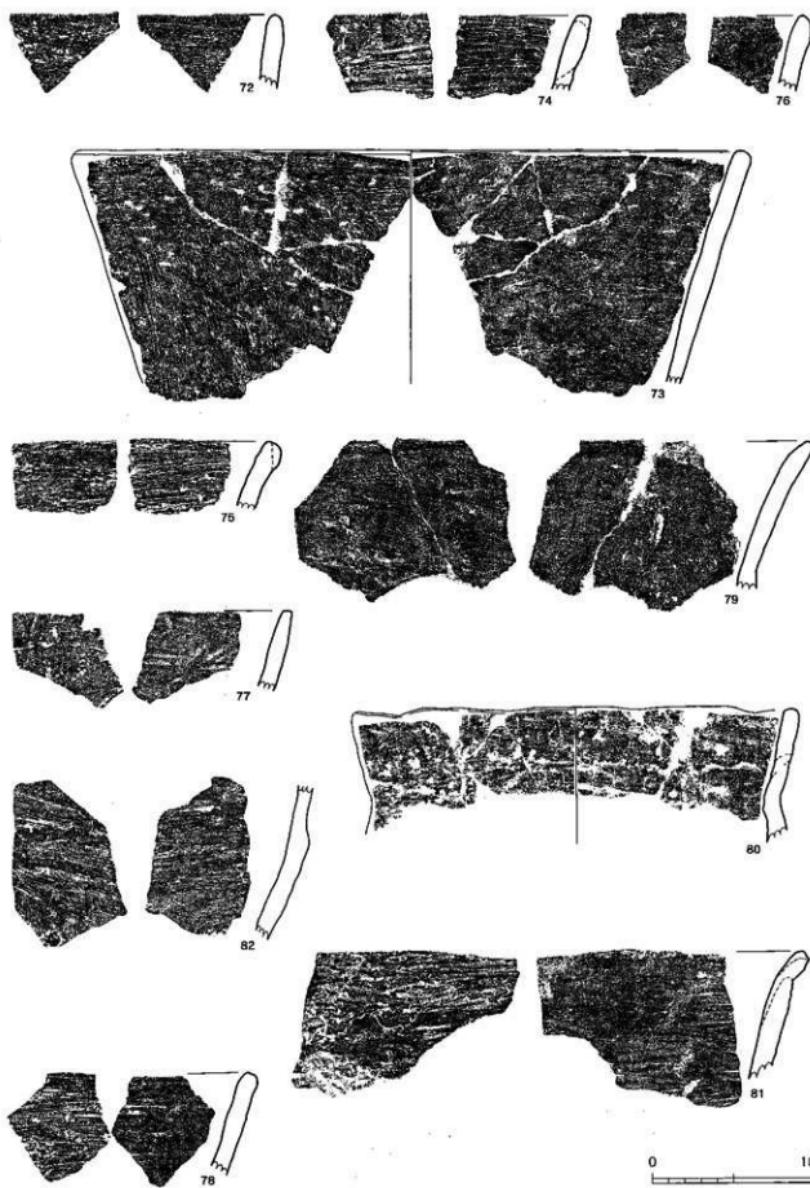


0 10cm

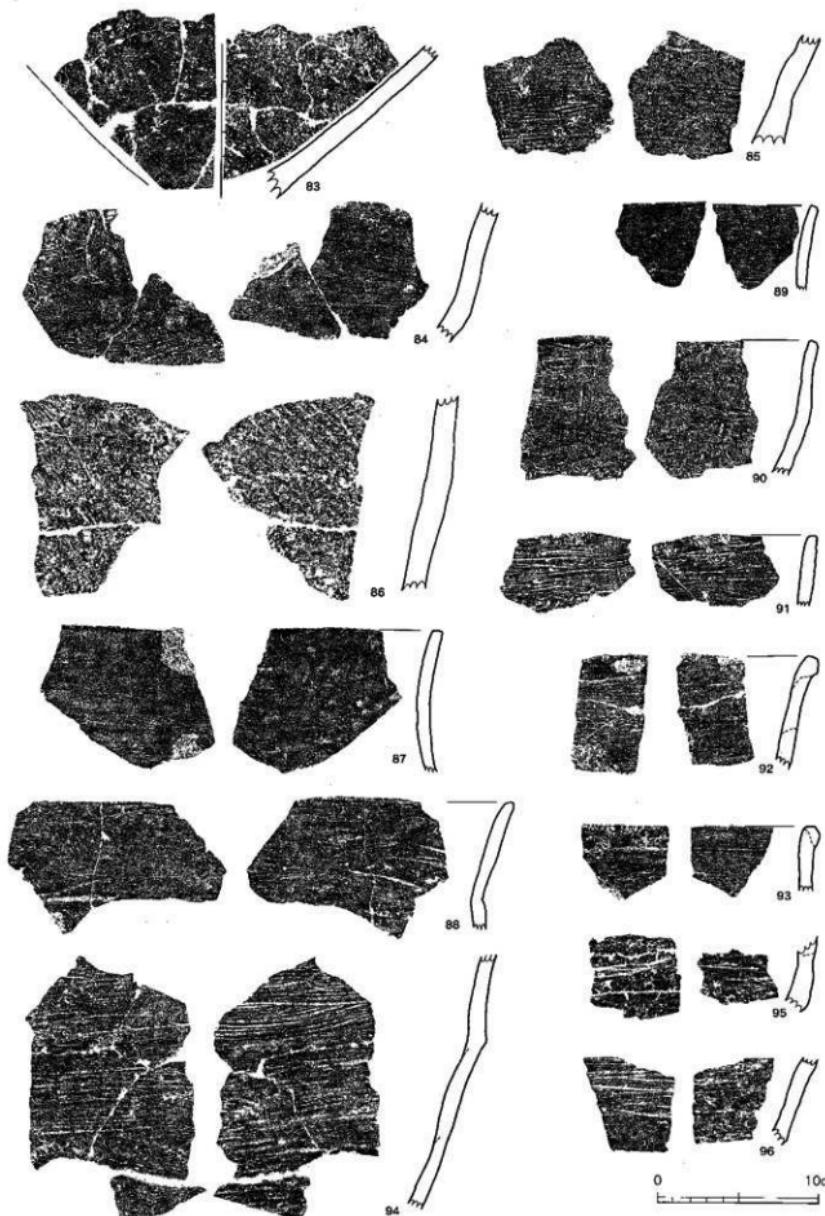
第23図 横市中原遺跡 繩文土器実測図(4) ( $S = 1/3$ )



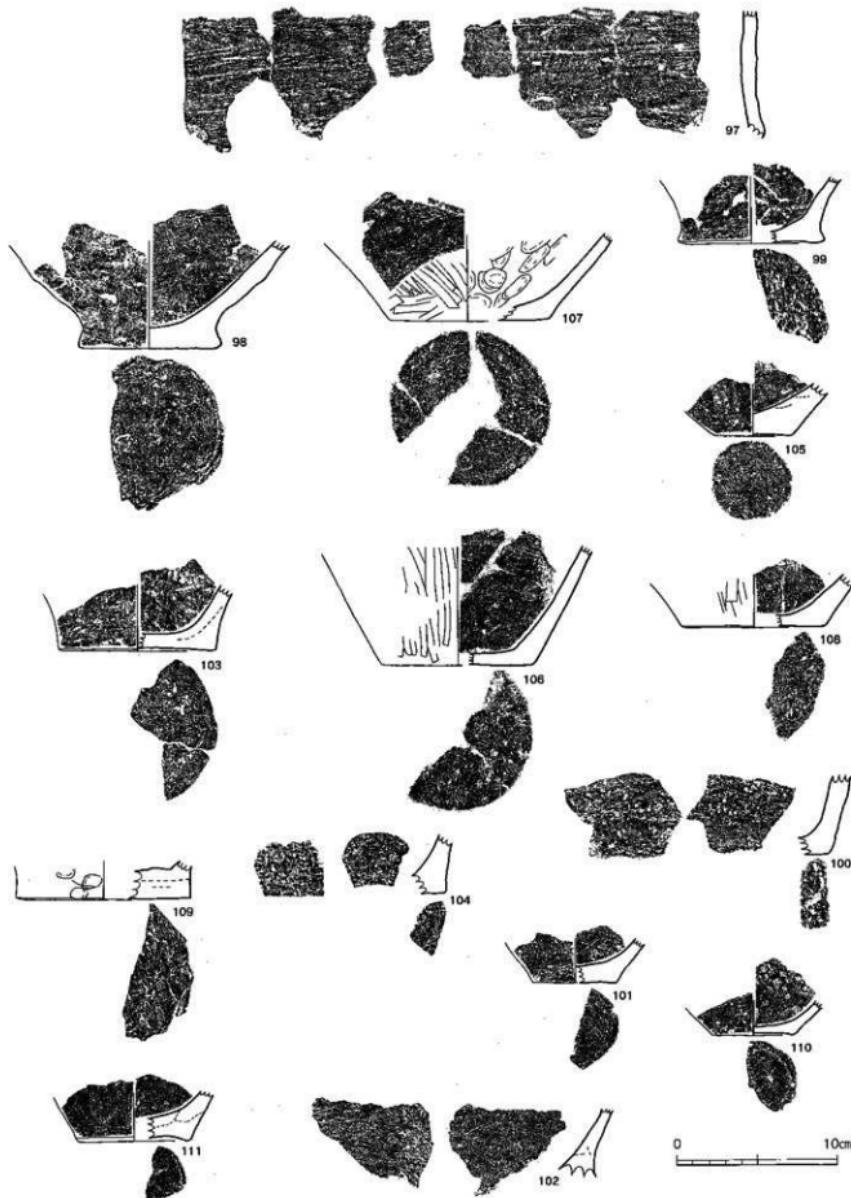
第24図 横市中原遺跡 棚文土器実測図(5) (S=1/3)



第25図 横市中原遺跡 裝文土器実測図（6）（S=1/3）



第26図 横市中原遺跡 橢文土器実測図(7) (S=1/3)



第27図 横市中原遺跡 繩文土器実測図（8）（S = 1/3）

3 底部から外傾する胸部が直接立ち上がるもの (105~108)。

4 端部の張り出しが弱く、厚底を呈するもの (109)。

B 上げ底を呈するもので、端部が張り出さず胸部が開くもの (110・111)。

#### XI類 (第28図 112~118)

器壁の厚い浅鉢を一括した。

A 口縁部が内湾するもの (112・113・114)。

112は外面にススが多く付着する。113は内外面に炭化物と思われるものが付着し、胸部には縱長の貫通した焼成後穿孔が見られる。穿孔は回転によるものと異なり、すり切りで貫通させたような内外方向の筋が見られるものである。114は外面に条痕を施し、ススが付着している。

B 口縁部が外傾しながら立ち上がるもの (115~117)。

C 底部付近でわずかに屈曲し、外面は横方向の条痕後ナデ、内面は斜め方向のヘラナデを施すもの (118)。

#### XII類 (第28図~第29図 119~124)

その他の浅鉢を一括した (119~124)。

119は口縁部が外傾しながら立ち上がり、端部は短く外反する。口唇部には「八」の字に連続する2条の押圧刻みを施している。120は底部付近で屈曲し、口縁部が外傾しながら立ち上がっている。また、口縁部を巡らし、口唇部のラインが短く波状になっている。内外面とも横方向の条痕後、ヘラナデを施している。121は胸部が屈曲し、口縁部が外反しながら延び、口縁部を有す。内外面ともミガキが施されている。122は頸部に波状の貼付突帯を巡らせ、口唇部には円形のドーナツ状貼付文が施されている。123は胸部が屈曲し、124は頸部が屈曲する。外面は丁寧な横方向のナデ、内面は横ナデを施している。

#### XIII類 (第29図 125)

特殊な土器であるもの (125)。

125は小型精製土器である。外面口縁部に沈線がめぐり、沈線上に貫通した小さな穿孔、口唇部にはボタン状の貼付が見られる。内外面ともミガキを施している。

#### (2) 弥生土器 (第13図 131)

弥生土器については、A区のSA4で数点出土したほか、調査区全体では小片が数点出土しただけであった。そのため、ここでは図化した1点のみについて説明する。131はB区で出土した壺の平底の底部である。内外面ともハケ日が施されている。

#### (3) 土師器 (第30図~第31図)

##### 甕

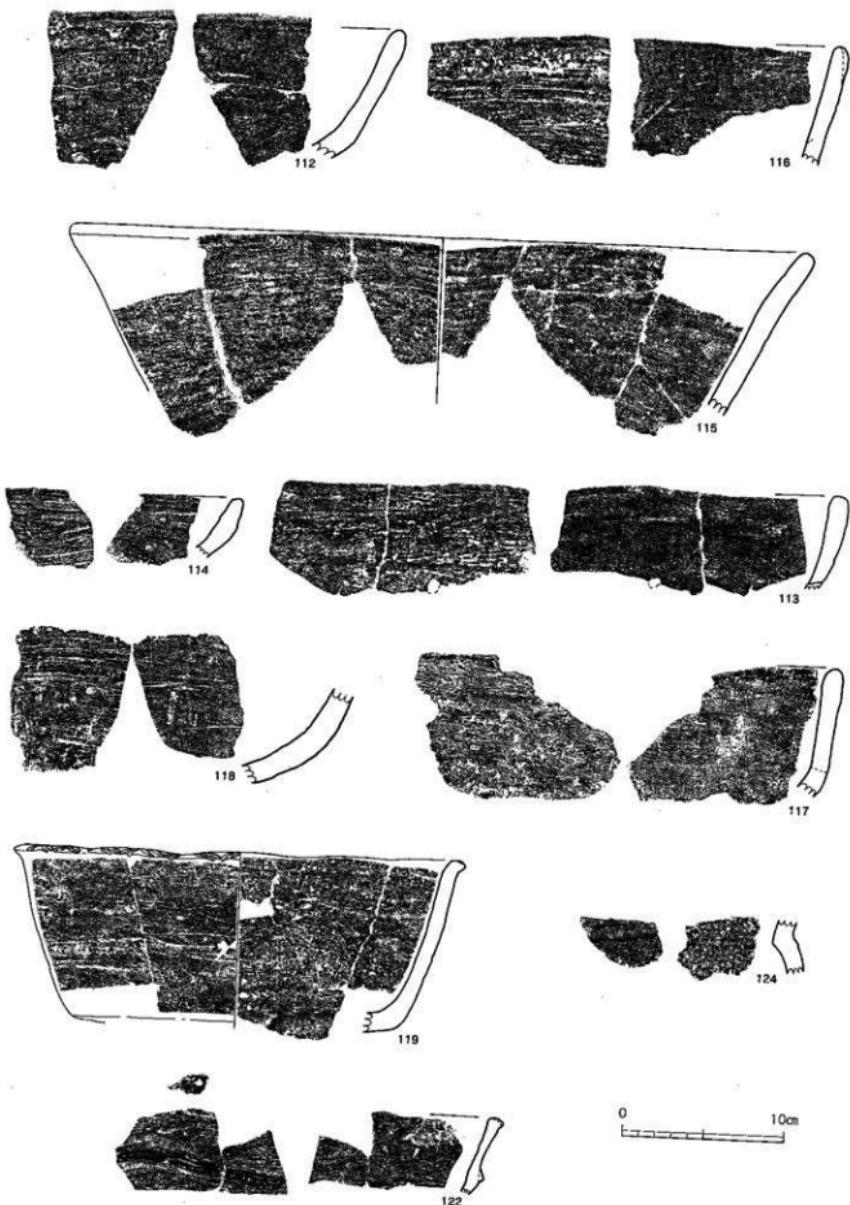
甕については多数出土したため、出土土器を部位や形態・文様によって分類した。各分類ごとに説明を加えていく。

#### I類 (第30図 147~161)

口縁部から頸部にかけて貼付刻目突帯を持つもの。

147・148・157~161はくびれのある頸部に突帯がある。口縁部が緩やかに外反し、161以外は最大径が口縁部にある。156は胸部上位に突帯を持つ。

#### II類 (第30図 162~166)



第28図 横市中原遺跡 織文土器実測図(9) ( $S = 1/3$ )



第29図 横市中原遺跡 繩文土器実測図(10) (S=1/3)

口縁部から胴部にかけて刻目がない貼付突帯を持つもの。

162・163は突帯貼付後、工具による横ナデを施し、つなぎ目をナデ消している。164は口縁部が緩やかに外反し、胴部外面には工具によるナデ、ハケ目を施している。165・166は内外面ともハケ目を施している。

### III類 (第31図 167~172)

口縁部から胴部にかけて貼付突帯を持たないもの、または残存部位が少なくて貼付突帯の有無が判断できないもの。

167・168・169・171・172は口縁部がやや外反するものである。167の口唇部には強い横ナデにより凹線状のくぼみが見られる。171は頸部が緩やかに屈曲し、口縁部は短い。外面に平行タタキを施している。170は口縁部が直線的に延びるものである。内外面ともハケ目を施し、外面は厚いススが付着している。

### IV類 (第31図 173~189)

底部を一括した。器形により3類に分類できる。

#### A 底部が平底を呈するもの (173~182)。

173・174・175・177・181は裾部に若干のくびれを持ち、底面の厚みも器面に比べて僅かに厚みを持つ。174は外面ともハケ目を施し、177は工具によるナデを施している。178・179は裾部のくびれが著しく、胴部に向かって開き気味に延びる器形と思われる。178の外面は粘土紐をドーナツ状に貼付け、その上に指ナデを施している。180・182は裾部にくびれを持たず、胴部に向かって開き気味に延びる器形と思われる。

#### B 底部が丸底を呈するもの (183)。

183は胴部に向かって大きく開き気味に延びる器形と思われる。

#### C 底部が上げ底を呈するもの (184~189)。

184・189は胴部に向かって開き気味に延びる器形と思われる。185は厚底である。186~189は裾部が外側に開き、脚台状の上げ底になっている。187・188は工具によるナデが施されている。

### 小型甕 (第31図 190・191)

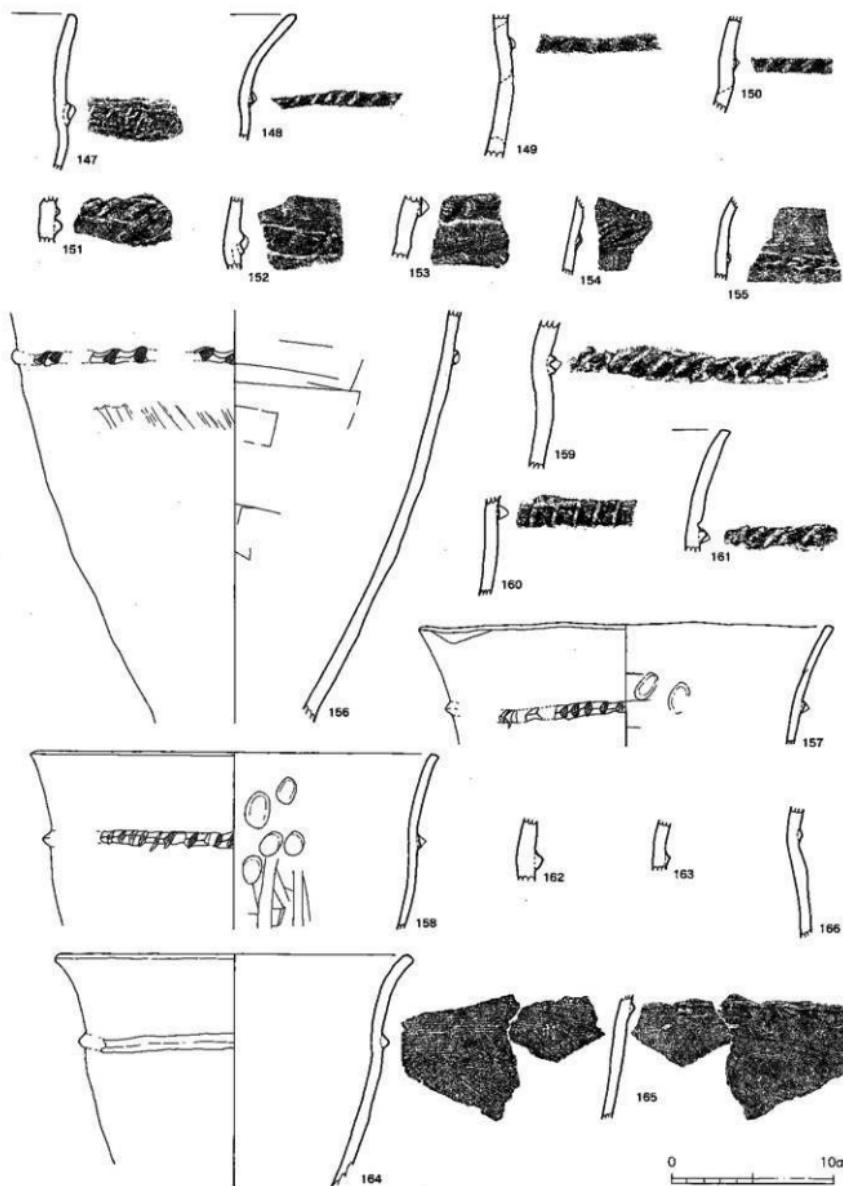
190・191は同一個体の小甕である。内外面とも風化が著しい。口縁部が「く」字形に緩やかに外反し、胴部が膨らむものである。外面は縦方向のハケ目を施し、内面は粗なナデで、胴部下半部はケズリを施している。粘土のつなぎ目も見られる。

### 壺 (第31図 192~195)

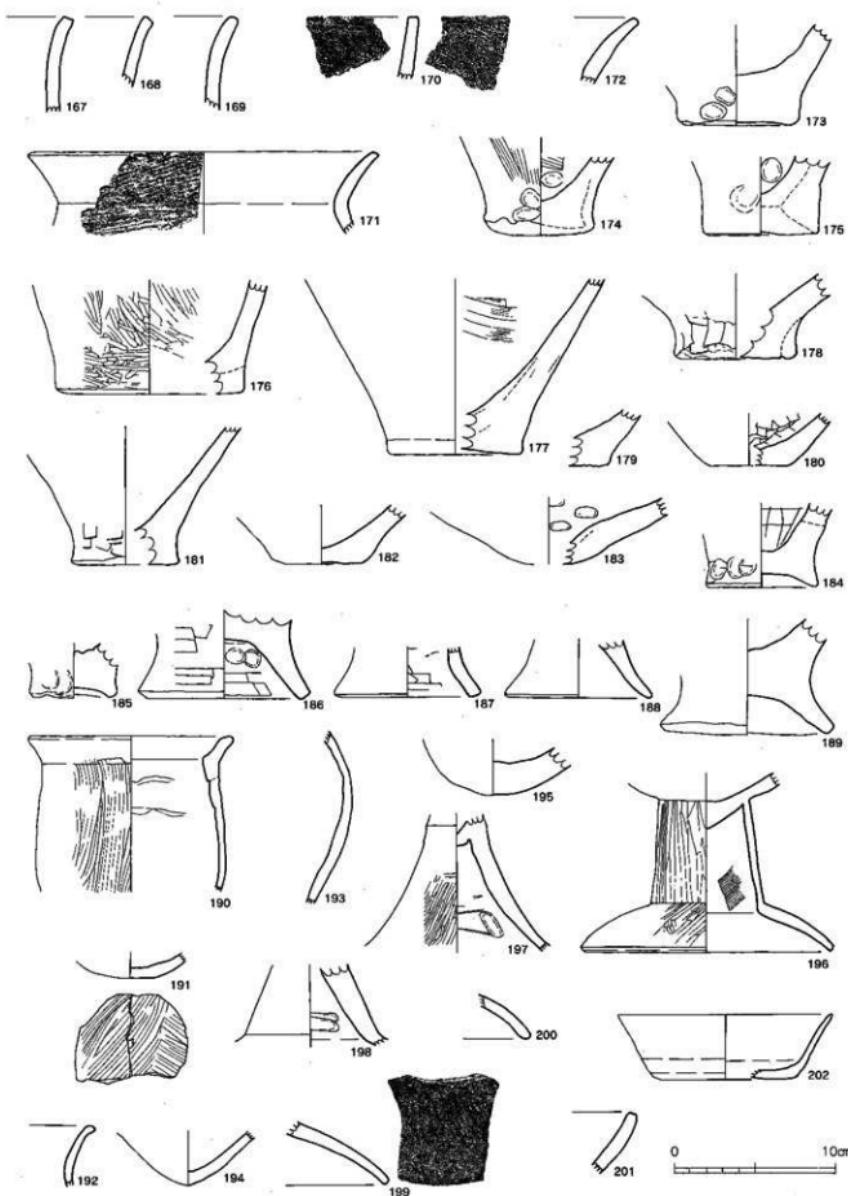
192は口縁部が緩やかに外反する。内外面とも横方向のナデを施し、指頭痕が見られる。193は胴部である。内外面とも風化が著しいが、工具によるナデが施されている。内面は粘土のつなぎ目を指で押さえて調整している。194は底部が尖底の壺である。外面は縦方向のミガキを施し、赤色顔料が付着している。内面は風化気味であるが、ミガキが施されていると思われる。内外面とも部分的に黒変している。195は厚みのある丸底の壺である。内外面ともナデを施し、内面は指頭痕も見られる。

### 高坏 (第31図 196~200)

196は坏部から脚部である。裾部が明瞭な棱を持ち開いており、脚部は直線的に延びている。外面はミガキを施し、内面は丁寧なナデであるが、脚部内面には工具痕も見られる。197は脚部である。脚柱部から裾部にかけて屈曲を持たずに末広がりに延びている。外面は斜め方向にヘラミガキを施し、内面



第30図 横市中原遺跡 土器実測図（1）(S=1/3)



第31図 横市中原遺跡 土器器実測図(2) (S=1/3)

は工具を回転しながらのナデを施している。198は緩やかに八の字に聞く脚部である。外面は縦方向のナデ後、ナデを施している。内面は横ナデを施し、指頭痕も見られる。199・200は据部が内湾する。両遺物とも外面はミガキ、内面は横ナデを施し、ススが一部付着している。

#### 鉢 (第31図 201)

201は鉢の口縁部である。内外面ともナデが施され、口唇部には横方向に幅1mmの工具による沈線を巡らせてている。

#### 壺 (第31図 202)

202は壺の底部である。内外面とも風化気味である。外面は回転ナデ、内面はナデが施されている。底部の切り離しは風化のため、不明である。

#### (4) 石器 (第32図～第39図)

石鏸、石錐、スクレイパー、剥片、石斧、敲石、磨石、砥石、石皿、台石、石窓丁などが第V・VI層から出土している。

#### 石鏸 (第32図 207～209)

207～209は打製石鏸の未製品と推定されるものである。207はA区第V層、208はA区第VI層、209はC区第V層から出土した。利用石材は207はチャート、208は石英、209は砂岩である。

#### 石錐 (第32図 210～212)

210はA区第VI層、211・212はC区第V層から出土した。210は錐部の先端が摩耗気味である。212は剥片の切断と二次加工を組み合わせて長い錐部を成形していると思われる。211は石錐と断定はできないが、錐部が欠損していると思われる。利用石材は210・212がチャート、211がサスカイトである。

#### スクレイパー (第32図 213～216)

213はA区第VI層、214はA区第V層、215はC区第V層、216はC区第VI層でそれぞれ出土した。213は反軸上の端部に急斜度調整で刃部を設けたものである。214は剥片の側縁に連続的な調整によって刃部を構成しているものである。215は長円形の器形に急斜度調整による刃部を設けたものである。216は下縁部に連続した加工が見られる。利用石材は214がホルンフェルスで、その他はすべて輝石安山岩である。

#### 剥片 (第32図～第33図 217～224)

217・219はA区第V層、218はA区第VI層、220～223はC区第V層、224はB区第VI層でそれぞれ出土した。217以外は石斧に用いられる石材であることから、製作段階で生じた剥片であると考えられる。利用石材は、217はサスカイト、223は砂岩、その他はすべて輝石安山岩である。

#### 二次加工剥片 (第33図～第34図 225～231)

225・228・229はA区第V層、230・231はA区第VI層、226はC区第V層、227はC区第VI層からそれぞれ出土した。228～230は打製石斧の未製品と考えられる。利用石材は225が黒曜石、226がチャート、227が石英、229が砂岩である。その他はすべて輝石安山岩である。

#### 使用痕剥片 (第34図 232)

232はC区の第V層から1点出土した。側縁に使用痕と思われる剥離痕が見られる。利用石材は砂岩である。

#### 石核 (第34図～第36図 233～240)

233はA区第V層、234～236はA区第VI層、237～240はC区第V層からそれぞれ出土した。236・239・240以外はすべて石材が輝石安山岩であり、石斧製作に伴う石器と考えられる。その他は236が黒曜石、239がチャート、240がホルンフェルスである。

#### 打製石斧（第36図～第37図 241～248）

241・242はA区第V層、243～245はA区第VI層、246～248はC区第V層からそれぞれ出土した。241・245は三味線の撥に似た撥形のものである。242・248は上下両端が張り出し中央部がくびれているものであり、242は明瞭な使用痕が残る。243は右側部分が欠損しているが大型のものと思われる。244は刃部のみである。246・247は基部である。利用石材は245・248が砂岩、242がホルンフェルスで、その他はすべて輝石安山岩である。

#### 磨製石斧（第37図 249～253）

250はA区第VI層、250・252はA区第V層、249・253はC区第V層からそれぞれ出土した。250・251は小型の棒状のもの、249・253は長方形をした短冊形のもの、252は基部のみである。利用石材は249～251が砂岩、252・253がホルンフェルスである。

#### 敲石（第38図 254～258）

255・257はA区第V層、254・256・258はA区第VI層でそれぞれ出土した。254～256は球形、257・258は円盤状である。254・256・257・258は側縁の一部に敲打痕が見られる。256については縁全体に敲打痕が見られる。利用石材は254～256が輝石安山岩で、257・258が砂岩である。

#### 磨石（第38図～第39図 259～263）

259・260はA区第V層、261はA区第VI層、262はC区第VI層、263はC区第V層でそれぞれ出土した。平面形態はすべて円形または梢円形を呈し、断面形は扁平である。両面に擦り痕、側縁の一部に敲打痕が見られる。利用石材は、262が溶結凝灰岩、259が輝石安山岩で、その他は砂岩である。

#### 砥石（第39図 264・265）

264はB区の第V層から出土したものである。側面をなめらかに研磨して面取りをしている。両面とも中央を中心に使用した痕跡が残る。利用石材は砂岩である。265はC区第V層から出土したものである。表面両面、側面とも砥面を持つ。利用石材は粘板岩である。

#### 石皿（第39図 266）

266はC区第V層で出土した。中央部に四面を持つ。利用石材は砂岩である。

#### 石庖丁（第39図 267）

267はB区の第V層から出土したものである。成形後、両面、側面、背部を丁寧に研磨している。磨製の両端抉り入り石庖丁である。利用石材はホルンフェルスである。

#### 擦痕ある石器（第39図 268）

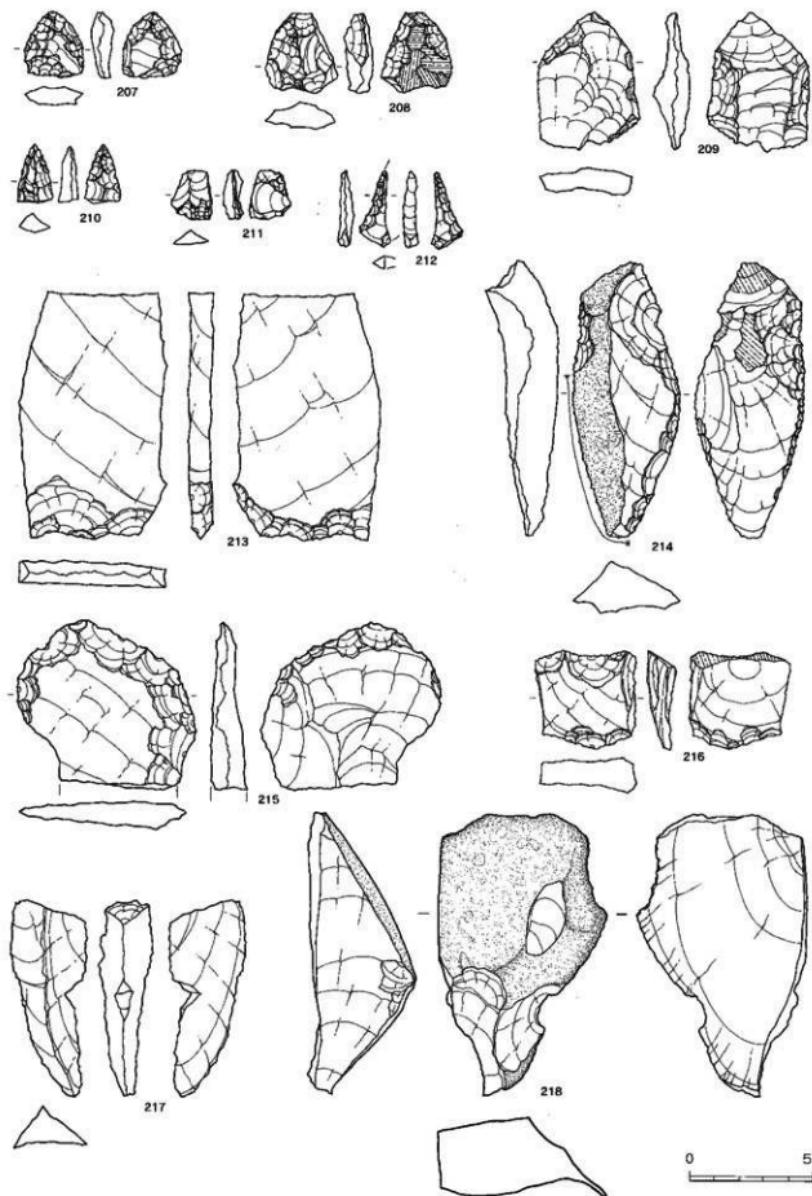
268はC区の第VI層から出土した。表面、側面とも擦り痕が見られる。利用石材は頁岩である。

#### 異形石器（第39図 269）

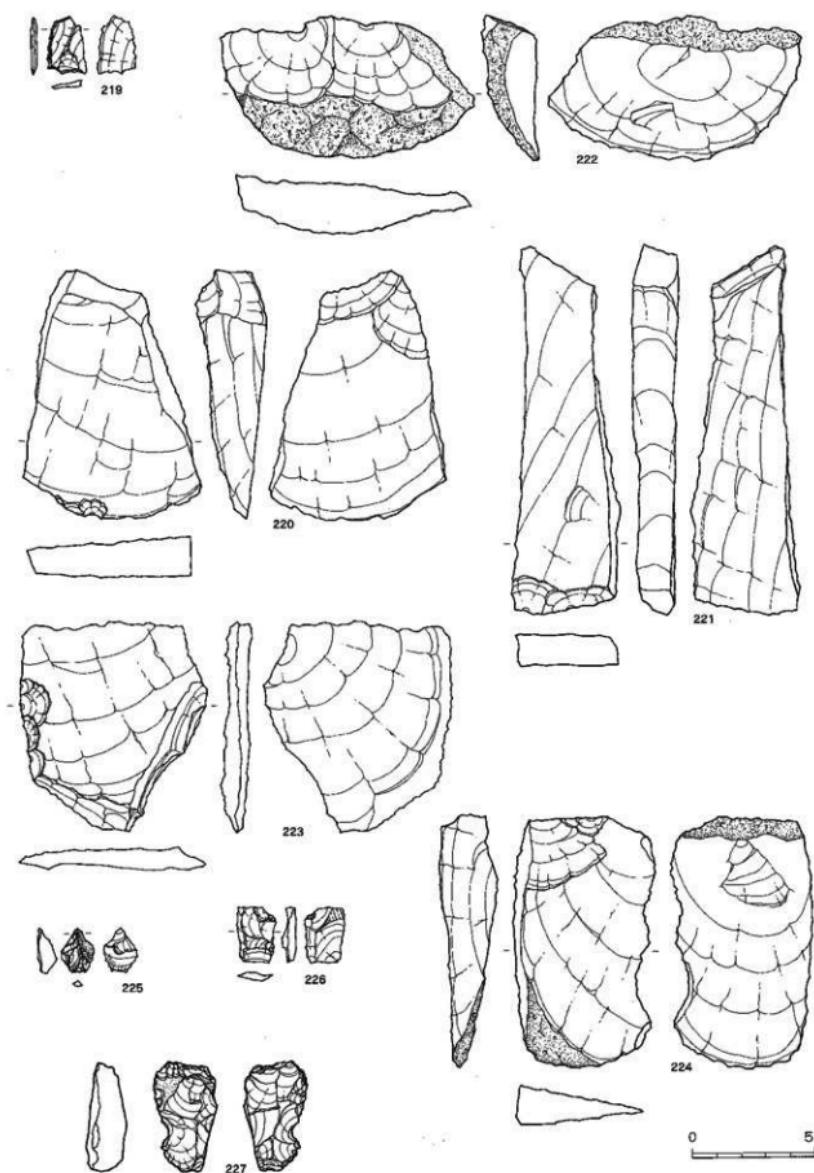
269はA区の第VI層から出土した。全体に押圧剥離が見られる。利用石材はチャートである。

#### (5) 鉄器（第39図 270）

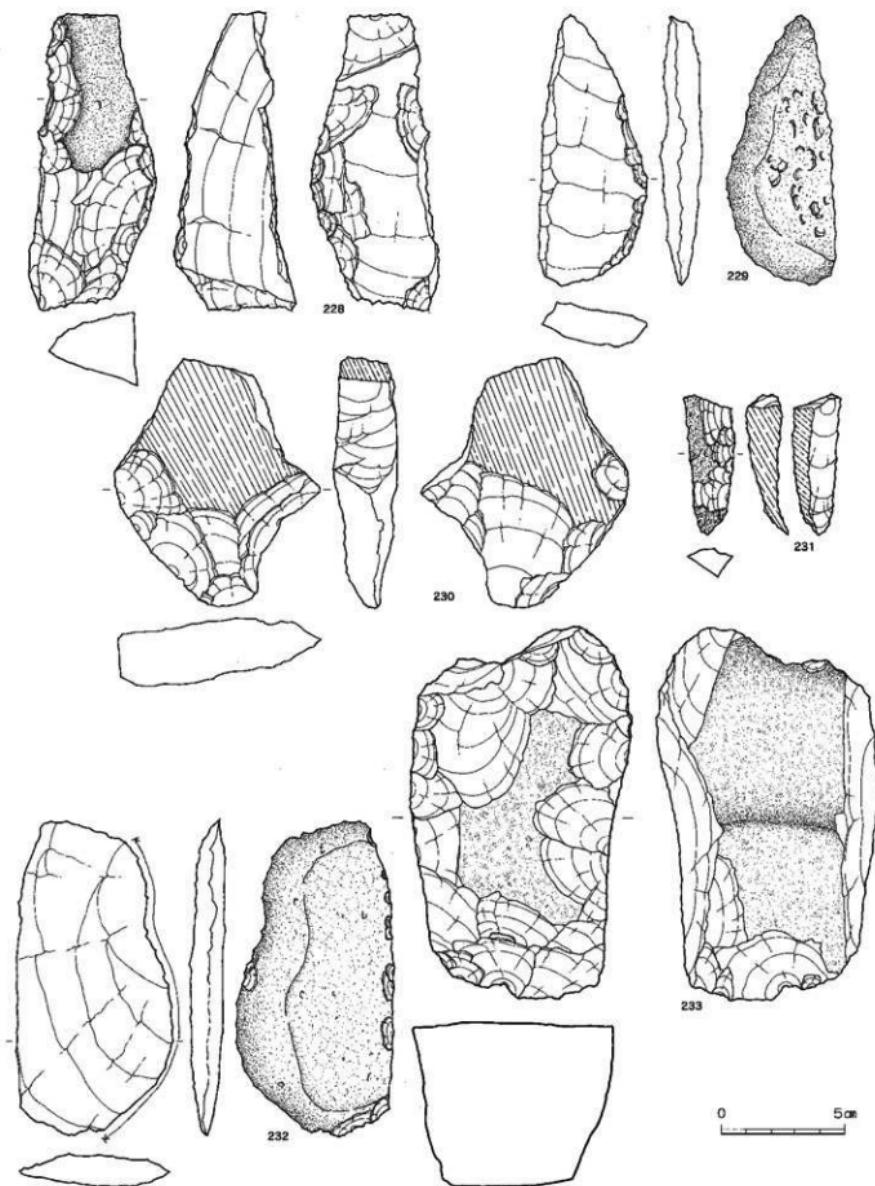
270はA区の第V層から1点だけ出土した鉄器である。茎部分のみ残存しており、残存長4.4cm、最大幅0.55cm、厚さ0.2mを測る。時期については不明である。



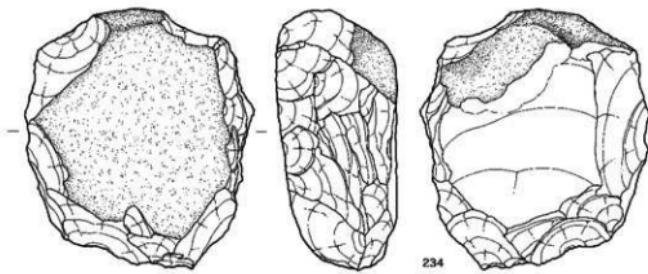
第32図 横市中原遺跡 石器実測図(1) (S=1/2)



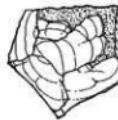
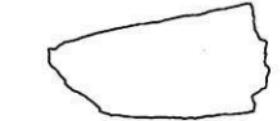
第33図 横市中原遺跡 石器実測図(2) (S=1/2)



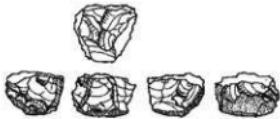
第34図 横市中原遺跡 石器実測図(3) (S=1/2)



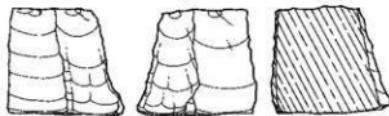
234



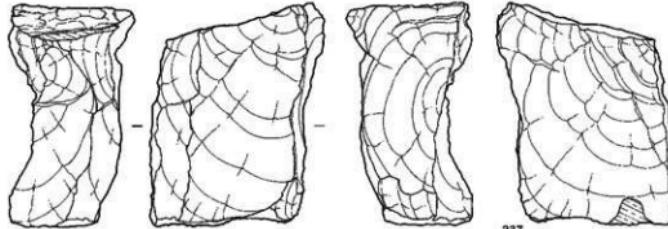
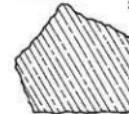
235



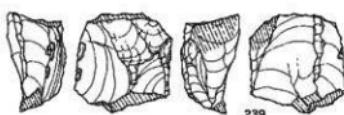
236



235



237



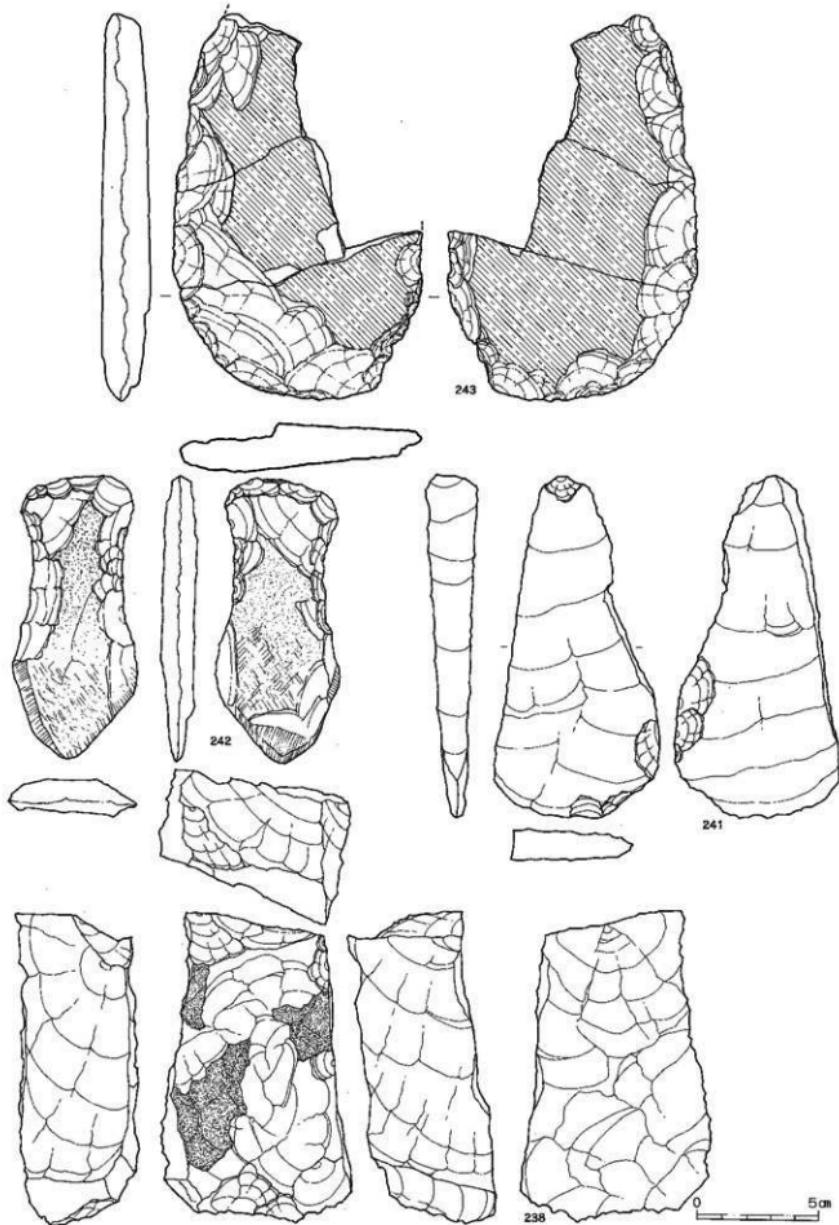
239



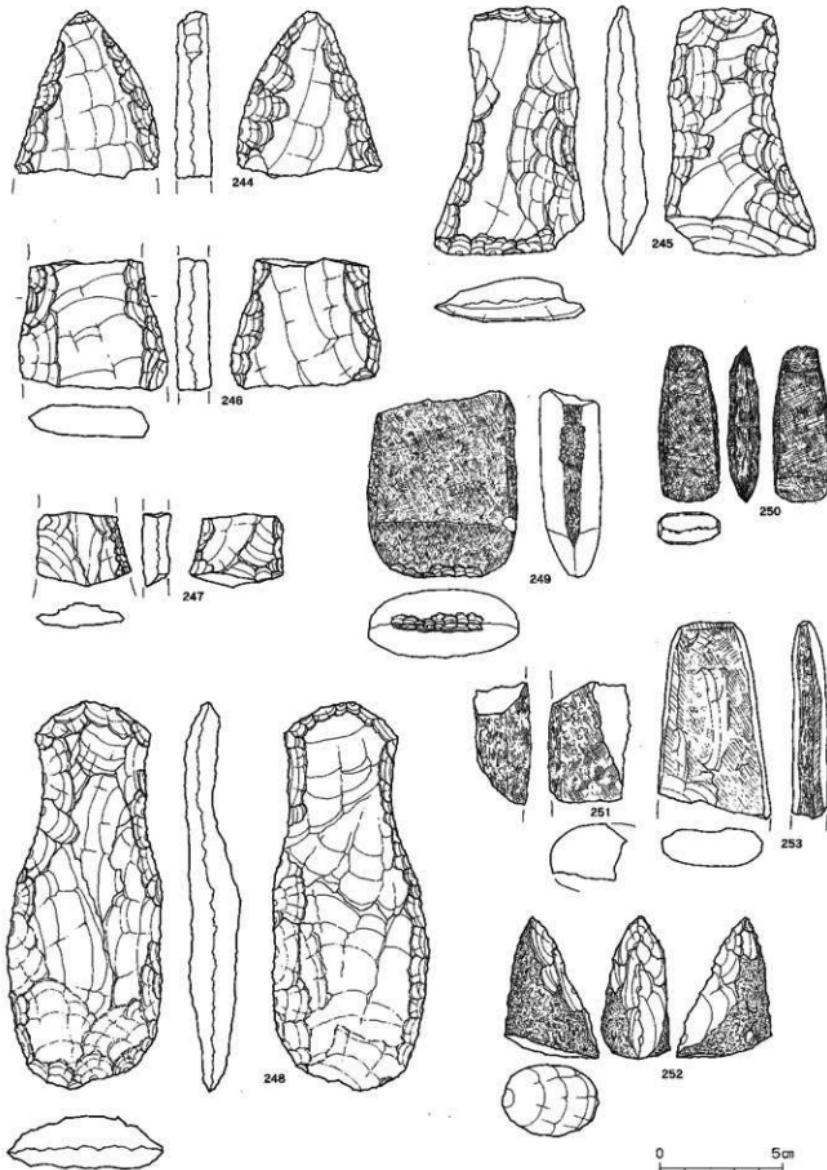
240

0 5cm

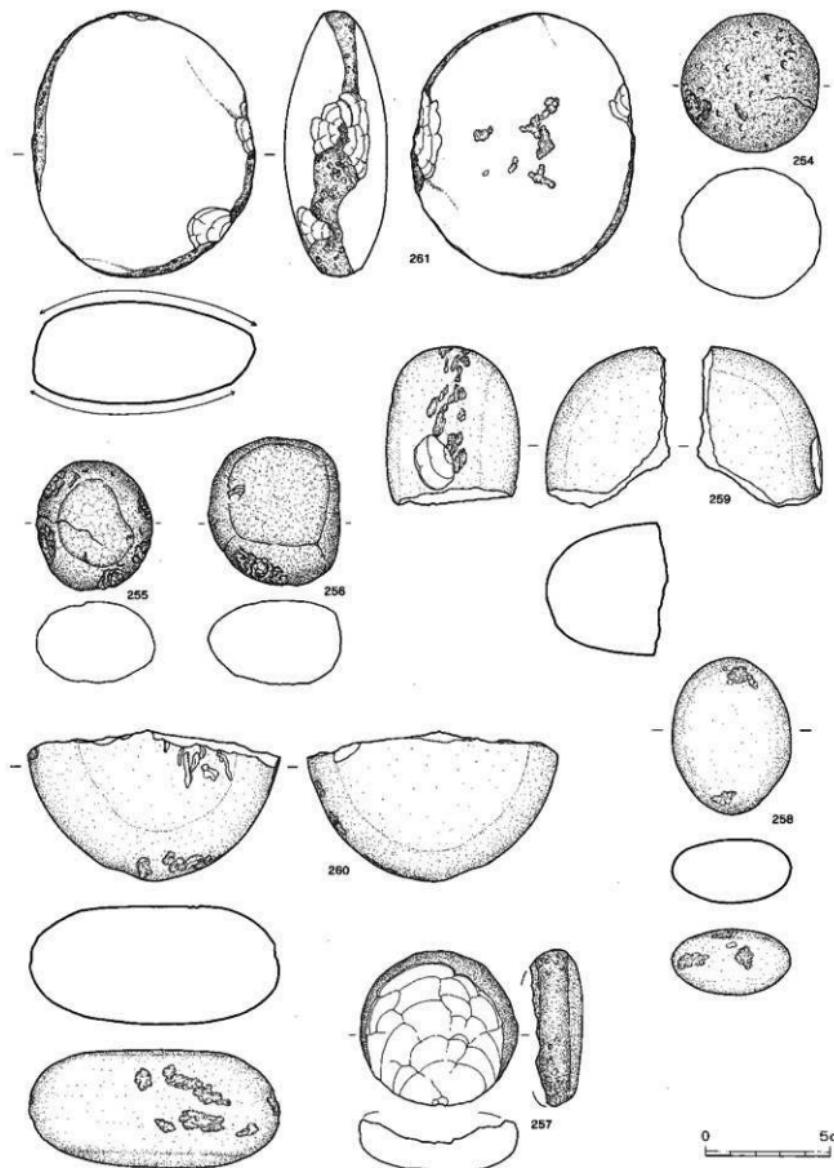
第35図 横市中原遺跡 石器実測図(4) (S=1/2)



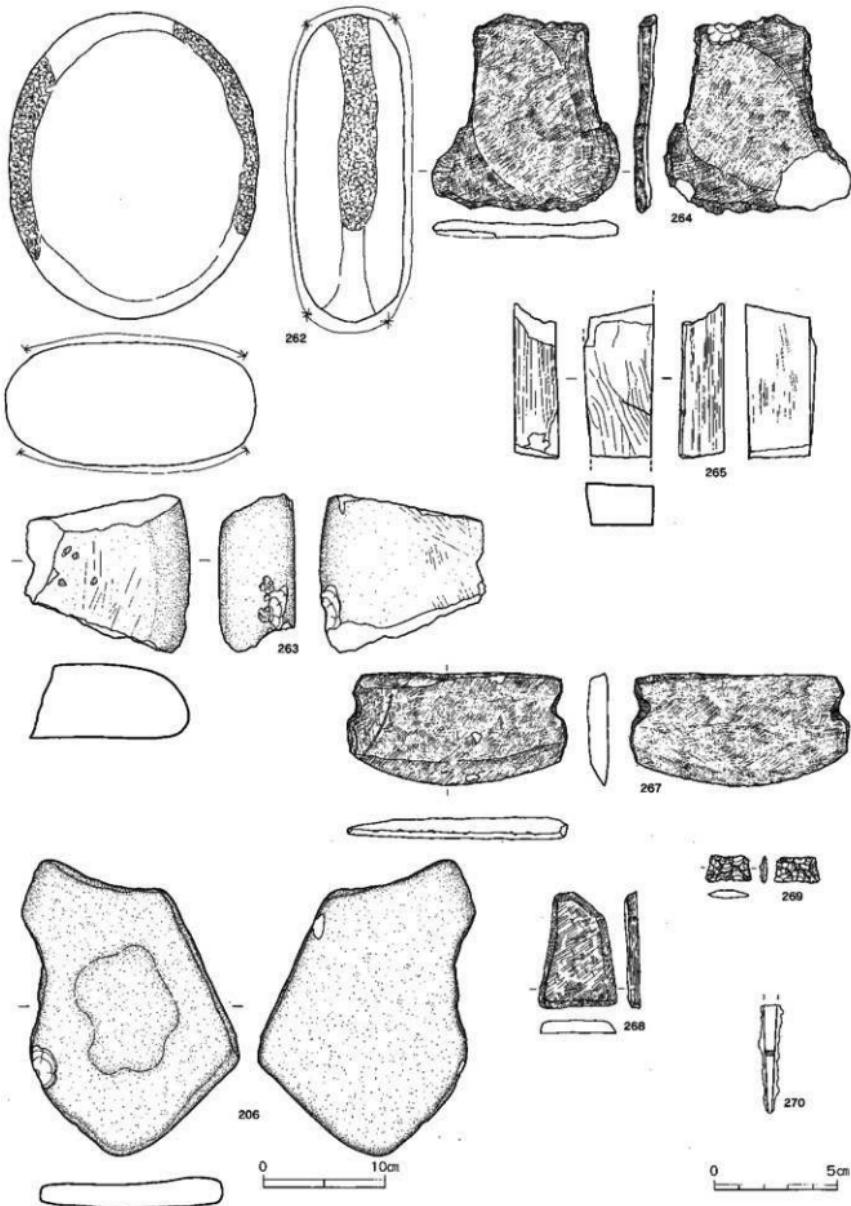
第36図 横市中原遺跡 石器実測図(5) (S=1/2)



第37図 横市中原遺跡 石器実測図(6) (S=1/2)



第37図 横市中原遺跡 石器実測図(7) (S=1/2)



第39図 横市中原遺跡 石器実測図(8) (S=1/2 266はS=1/4) および鉄器実測図(270はS=1/2)

第1表 横市中原遺跡 土器観察表1

番号	種類	書名	出土地	出土位置	測量点(m)	手括・調査・文様ほか	施成	色調		跡の特徴	備考
								外面	内面		
1	縄文土器	河口 口沿一部破	A 区 SA 2	鹿島 鹿島		前方斜のナデ 斜め方向のナデ	真打	赤褐色 に赤い質感	2mm以下の層、灰白色 1mm以下の無色透明質、黑色光沢	表面はスズ付質	
2	縄文土器	浅 縦縫	A 区 SC 1	横穴式 居間		前方斜の直上より不定方向 前方斜の其他の各板 施痕	真打	に赤い質感 明赤色	3mm以上の無色透明質 1mm以下の無色透明 1mm以下の灰白・灰白色	外壁はスズ付質	
3	縄文土器	浅 縦縫	A 区 SC 6	横穴式 居間		前方斜の 丁寧なナデ	真打	明赤色	に赤い質感 1mm以下の灰白	2mm以下の無色透明 1mm以下の灰白・淡青色	
4	縄文土器	深 縦縫	C V	居間		前方斜の之外の只印痕 横・斜め方向の其他の各板	真打	正赤 に赤い質感	3mm以下の灰白 1mm以下の灰白・黑色		
5	縄文土器	深 縦縫	A 区 V	横穴式 居間		斜め方向の其他の各板 其他の各板	真打	赤褐色 に赤い質感	2mm以下の透明白光沢 1mm以下の透明白光沢 1mm以下の灰白・黑色	外壁はスズ付質	
6	縄文土器	深 縦縫	A V	横穴式 居間		前方斜のナデ 只印痕左側縫跡	真打	石川赤 に赤い質感	2mm以下の透明白光沢 1mm以下の灰白・黑色	外壁はスズ付質	
7	縄文土器	深 縦縫一部剥	A 区 V	横穴式 居間		前方斜のナデ 只印痕右側縫跡	真打	に赤い質感 に赤い質感	1.5mm以下の灰白 1mm以下の透明白光沢		
8	縄文土器	深 縦縫	A 区 V	横穴式 居間		前方斜の只印痕 只印痕向のナデ	真打	に赤い質感 に赤い質感	3mm以下の灰白 4mm以下の無色透明	外壁はスズ付質	
9	縄文土器	深 縦縫	B V	横穴式 居間		其他の各板による斜め方向 其他の各板 其他の各板	真打	明赤色 に赤い質感	2mm以下の無色透明 1mm以下の灰白・灰・透明光沢	外壁はスズ付質	
10	縄文土器	深 縦縫付近	A 区 V	横穴式 居間		前方斜の只印痕 只印痕による斜め方向 只印痕による斜め方向	真打	角 に赤い質感	3mm以下のに赤い無色透明 1mm以下の明赤色		
11	縄文土器	深 縦縫	A V	横穴式 居間		前方斜のナデ 通風孔する斜め方向 只印痕による斜め方向	真打	ナデ に赤い質感 に赤い質感	2mm以下の白・灰白・黑色 透明白光沢	穿孔木質	
12	縄文土器	深 縦縫	A V	横穴式 居間		前方斜の丁寧なナデもし 只印痕による斜め方向	真打	に赤い質感 明赤色	2.5mm以下の灰白 1mm以下の黑色	外壁はスズ付質	
13	縄文土器	小切端部 II 縦縫	A V	横穴式 居間	30.2	前方斜のナデ 2本の只印痕 門式小口所	真打	横赤色 に赤い質感 明赤色	2mm以下の明赤色 に赤い無色透明 0.5mm以下の赤白・灰白・明赤色		
14	縄文土器	深 縦縫	A V	横穴式 居間		前方斜のナデ	真打	横 明赤色	3mm以下の灰白 1mm以下の灰白・透明白光沢	透明白光沢	
15	縄文土器	深 縦縫一部剥	A 区 V	横穴式 居間		へ伏状工による只印ナデ 只印ナデ	真打	に赤い質感 明赤色	2.5mm以下の灰白 1mm以下の灰白・灰・褐・黑・黑色 透明白光沢		
16	縄文土器	深 縦縫	A V	横穴式 居間		前方斜のナデ後 貼付穴付近	真打	横赤色 明赤色	2mm以下の灰白 1mm以下の灰白・黑色		
17	縄文土器	深 縦縫一部剥	A V	横穴式 居間		へ伏状工による只印方 只印方による只印方 只印方による只印方	真打	に赤い質感 只印方のナデ	3mm以下の明赤色 1mm以下の白・灰白・明赤色 1mm以下の灰白・黑色 透明白光沢 透明白光沢		
18	縄文土器	深 縦縫	A V	横穴式 居間		前方斜のナデ 貼付穴付近	真打	横赤色 明赤色	2mm以下の白・灰・赤褐色 1mm以下の明赤色 透明白光沢	外壁は黒皮	
19	縄文土器	深 縦縫	A V	横穴式 居間		前方斜のナデ 貼付穴付近	真打	横赤色 明赤色	2mm以下の灰白・灰・赤褐色 1mm以下の灰白・黑色 透明白光沢	外壁は黒皮	
20	縄文土器	深 縦縫	B V	横穴式 居間		前方斜のナデ 貼付穴付近	真打	横赤色 明赤色	2mm以下の灰白・灰・赤褐色 1mm以下の灰白・黑色 透明白光沢 透明白光沢	外壁はスズ付質 内壁は生漆付質	
21	縄文土器	深 縦縫一部剥	A V	横穴式 居間		前方斜のナデ	真打	横赤色 に赤い質感	2mm以下の灰白・灰・黑色 1mm以下の無色透明質 透明白光沢	外壁はスズ付質 内壁は生漆付質	
22	縄文土器	深 縦縫	A V	横穴式 居間		ナデ 貼付穴付近	真打	横赤色 明赤色	2.5mm以下の灰白 1mm以下の無色透明質 透明白光沢	穿孔木質	
23	縄文土器	深 縦縫	C V	横穴式 居間		第一ナデ	真打	に赤い質感 明赤色	2mm以下の灰白 1mm以下の無色透明質 透明白光沢	穿孔木質	
24	縄文土器	深 縦縫	C V	横穴式 居間		ナデ ナデ	真打	横赤色 明赤色	2mm以下の灰白 1mm以下の無色透明質 透明白光沢	穿孔・穿孔	
25	縄文土器	深 縦縫	C V	横穴式 居間		只印方のナデ 只印方は只印ナデ	真打	に赤い質感 明赤色	2mm以下の灰白 1mm以下の灰白・黑色 透明白光沢	穿孔木質	
26	縄文土器	深 縦縫	A V	横穴式 居間		前方斜の各板 前方斜のナデ	真打	横赤色 に赤い質感 明赤色	5mmの大広の灰白 2mm以下の灰白・黒 1mm以下の無色透明質 透明白光沢	穿孔木質	
27	縄文土器	深 縦縫	C V	横穴式 居間		只印ナデ 只印方のナデ	真打	横赤色 に赤い質感 明赤色	2mm以下の灰白 1mm以下の無色透明質 透明白光沢	穿孔木質	
28	縄文土器	深 縦縫	C V	横穴式 居間		前方斜のナデ 前方斜の各板	真打	に赤い質感 明赤色	4.5mm以下の灰白 2.5mm以下の灰白・黑色 1mm以下の灰白	穿孔木質	
29	縄文土器	深 縦縫	B V	横穴式 居間		前方斜のナデ 前方斜の各板	真打	に赤い質感 明赤色	1mm以下の灰白・灰・黑色 透明白光沢	穿孔木質	
30	縄文土器	深 縦縫	A V	横穴式 居間		横・斜め方向の細なナデ 1mm幅	真打	横赤色 明赤色	2mm以下の灰白・灰・黑色 透明白光沢	外壁はスズ付質	

第2表 横市中原遺跡 土器觀察表2

番号	地質	土器種類	出場	上・下 口	底盤(cel)	下部・調査・文様はか		焼成 外 内	色 調	出土の特徴	備考	
						口 底 板	内 面					
31	磯文十層	縫口盤	A VI	C V	新ナテ	直・斜め方向のナテ	直 斜 にない 直	1mm以下の深谷・薄白色。黑色調が混 在	外側はスズ付赤			
32	磯文上層	縫口盤	C V	C V	34.3	新ナテ	横・斜め方向のヘラえが き	直 斜 にない 直	1mm以下の深い黒、薄灰色。黑色 調が混在	外側はスズ付赤 内面は氧化銀		
33	磯文上層	縫口盤-斜板	A VI	C V		新ナテ	斜め方向の盤ナテ	良 好 にない 黄	1mm以下の深谷・薄黄色。0.5mm以下の 灰白色。黑色調が混在	外側はスズ付赤		
34	磯文十層	縫口盤-斜板	A VI	C V		斜め方向のナテ 點火炎	ヘラ状工具による不完全 方向のミガキ 斑	良 好 にない 黄 黄	1mm以下の深谷・薄黄・青褐色。黑色 調が混在	全体に付赤 内面は黒皮		
35	磯文七層	縫口盤-斜板	C V	C V		腰内のみのミガキ 横の方向のミガキ	腰方向のミガキ	良 好 深 灰	1mm以下の深谷・灰・黒・薄褐色			
36	磯文上層	縫口盤-斜板	C V	C V		斜め方向のミガキ 腰内のみのミガキ	腰方向のミガキ	良 好 深 灰	3mm以下の深谷・薄灰色 1mm以下の深谷・黒・青色			
37	磯文上層	縫口盤-斜板	A VI	A VI	131.6	へら状工具による腰方向 の横・腰方向のミガキ	腰方向のミガキ 灰	良 好 灰	3mm以下の深谷色 1mm以下の深谷・灰・青色。透明光沢	赤色透明光沢		
38	磯文上層	縫口盤-斜板	A VI	A VI		へら状工具による腰方向 のナテ	腰ナテ	良 好 灰	3mm以下の深谷色 1mm以下の深谷・灰・黑色	外側は一部黒皮		
39	磯文上層	縫口盤-斜板-底盤	A VI	A VI	8.5	腰内のみのミガキ 丁寧なミガキ	斜め・腰方向のミガキ	良 好 にない 灰 灰	1mm以下の深谷・灰・青・赤色。薄銀	外側はは一部黒 内面は赤		
40	磯文上層	縫口盤	C V	C V		斜め方向のミガキ	腰方向のミガキ	良 好 灰	2mm以下の深谷・浅褐色。黑色透明 光沢 1mm以下の深い黒・明褐・青褐色。透明 光沢	外側はスズ付赤		
41	磯文十層	縫口盤	A VI	A VI		ミガキ	丁寧なナテ	良 好 にない 黄	2mm以下の深谷色 1mm以下の深谷色	外側はスズ付赤		
42	磯文上層	縫口盤	C V	C V		斜めナテ	工具による腰方向のミガキ	良 好 皮膚灰	にない・薄 黃	2mm以下の深谷色。下透明光沢	内面は黒皮	
43	磯文十層	縫口盤	A VI	A VI		新ナテ	腰ナテ	良 好 にない 黄	腰を摸倣・薄褐色	外側はスズ付赤		
44	磯文上層	縫口盤	A VI	A VI		ナテ	ナテ	良 好 にない 黄	1mm以下の深谷色。下透明光沢。黒 色光沢			
45	磯文上層	縫口盤-斜板	C V	C V		腰ナテ 腰内のみのナテ。新め 窓のナテ	丁寧な腰ナテ	良 好 にない 黄	1mm以下の深谷・薄・青褐色。透明光 沢 1mm以下の柱状晶白色光沢			
46	磯文上層	縫口盤	C V	C V		腰方向のミガキ	腰方向のミガキ	良 好 灰	1.5mm以下の深谷色 1mm以下の深谷・薄・青褐色。黑色透 明光沢	外側は黒化光澤 内面は赤		
47	磯文上層	縫口盤	C V	C V		腰内のみのナテ 斜板	工具による腰方向のナテ 斜板	良 好 灰	2mm以下の深谷色 1mm以下の深谷・薄・青褐色。黑色透 明光沢	外側はスズ付赤		
48	磯文十層	縫口盤	A VI	A VI		丁寧なナテ ヘラ状工具による腰方向 のナテ	腰方向の丁寧なナテ	良 好 にない 黄	1mm以下の深谷・灰・黒・黑色透 明光沢	非赤座付赤		
49	磯文十層	縫口盤	A VI	A VI		無施釉。ナテ	新め後、ナテ	良 好 にない 黄	2mm以下の無色透明光沢。薄・青色 0.5mm以下の新め・青・灰・黑色			
50	磯文上層	縫口盤	A VI	A VI		ヘラ状工具によるナテ	ミガキ	良 好 灰	3mm以下の深谷・薄・青褐色。黑色 透明光沢 1mm以下の深谷・薄・青褐色。黑色透 明光沢	外側は黒皮		
51	磯文上層	縫口盤-斜板	C V	C V	40.4	横・斜め方向のヘラナテ 口部斜板ナテ 腰窓	ミガキ	良 好 にない 黄	5mm以下の深谷・薄 1.5mm以下の新め・赤・青褐色。黑色 透明光沢			
52	磯文上層	縫口盤-斜板	A VI	A VI		ナテ 腰窓	腰板ナテ	良 好 にない 黄	2mm以下の深谷・薄褐色 1mm以下の明褐・黑色	外側はスズ付赤		
53	磯文上層	縫口盤-斜板	A VI	A VI		新ナテ 腰窓	新ナテ 腰窓	良 好 にない 黄	2mm以下の深谷色 1mm以下の明褐・黑色	外側はスズ付赤 内面は赤		
54	磯文上層	縫口盤-斜板	A VI	A VI		腰内のみのナテ 腰窓	腰ナテ 腰窓	良 好 灰	4mm以下の新め・薄褐色 2mm以下の柱状晶白色 1mm以下の明褐・黑色	内面は黒皮		
55	磯文上層	縫口盤	A VI	A VI		上部は表面消褪 腰窓	腰内のみのナテ 腰窓	ナテ 良	3mm以下の深谷色 1mm以下の深谷・薄・青褐色。透 明光沢			
56	磯文上層	縫口盤	A VI	A VI		腰窓	腰窓	ナテ にない 黄	2mm以下の深谷・薄褐色 半透明			
57	磯文上層	縫口盤	A VI	A VI		腰内のみのナテ 腰窓	ナテ	良 好 にない 黄	2mm以下の深谷・薄褐色 透明光沢	黒化がしい		
58	磯文上層	縫口盤-斜板	A VI	A VI		腰内のみのナテ 腰窓	腰方向の新施釉ナテ 腰内のみのナテ	良 好 にない 黄	3mm以下の深谷・薄・青褐色 1mm以下の柱状晶白色			
59	磯文十層	縫口盤-斜板	A VI	A VI	43.4	ヘラ状工具によるナテ 腰花瓶	丁寧なナテ 腰方向の斜板	良 好 にない 黄	3mm以下の深谷・薄・青褐色 1mm以下の柱状晶白色	外側はスズ付赤 内面は黒化光澤		

第3表 横市中原遺跡 土器観察表3

番号	種類	基準	土高	基質(cm)	手法・調査・文様等	形状	色調			地上的特徴	備考
							外 面	内 面	外 面		
61	縄文十形 口沿	浅 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色、横方向のナデ 表面粗粒	直筒形、横方向のナデ 表面粗粒	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の灰褐色、灰白、褐色 にぶい・黄褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮及び 炭化物付	
62	縄文十形 口沿	浅 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向のナデ 表面粗粒	工具による削・削め方向 工具によるナデ	灰 灰 灰	灰褐色 灰褐色 灰褐色	3mm以下の灰・灰白・褐色 3mm以下の灰・灰白・褐色 3mm以下の灰・灰白・褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮及び 炭化物付	
63	縄文十形 口沿	浅 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色へラ形状 具によるナデ 表面粗粒	削る方向の削後、へラ状 工具による削ナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	3mm以下の灰・灰白・褐色 1mm以下の灰白、褐色 にぶい・黄褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
64	縄文十形 口沿	浅 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色へラ形状 具によるナデ 表面粗粒	削る方向の削後、へラ状 工具による削ナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	4mm以下の褐色 1mm以下の灰・褐色 にぶい・黄褐色	外縁はスズ付縦 内面は炭化物付	
65	縄文十形 口沿	浅 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	丁寧なナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	8mm以下の茶褐色 3mm以下の茶褐色、灰褐色 8mm以下の茶褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
66	縄文十形 口沿	浅 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	丁寧なナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色 1mm以下の灰白、褐色 にぶい・黄褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
67	縄文十形 口沿	浅 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	ナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色 1mm以下の灰白、褐色 にぶい・黄褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
68	縄文十形 口沿	浅 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色へラ形状 具によるナデ 表面粗粒	削る方向の削後、へラ状 工具による削ナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	4mm以下の茶褐色 1mm以下の灰・褐色 にぶい・黄褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
69	縄文十形 口沿	浅 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	ナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2.5mm以下の茶褐色、灰白、褐色 1mm以下の灰白色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
70	縄文十形 口沿	浅 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	削め方向の削後、ナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	3mm以下の茶褐色 1mm以下の灰白、灰・褐色 にぶい・黄褐色	内面は灰皮	
71	縄文十形 口沿	浅 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	丁寧なえがき	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	1mm以下の灰白、灰白、褐色 にぶい・黄褐色	外縁はスズ付縦 内面は炭化物付	
72	縄文十形 口沿	浅 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	ナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の灰白色 1mm以下の灰白色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
73	縄文十形 口沿	深 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色 表面粗粒	削るナデ、削め方向のナ デ 表面粗粒へラ形状工具によ る削ナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色 1mm以下の灰白色、全盤灰 色	内面は灰皮	
74	縄文十形 口沿	深 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	削め方向の茶褐色	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	4mm以下の茶褐色、灰・にぶい・黄褐色 2mm以下の茶褐色、削め方向の茶褐色 にぶい・黄褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
75	縄文十形 口沿	深 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	削め方向の茶褐色	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	3mm以下の茶褐色、削め方向の茶褐色 1mm以下の灰白、灰褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
76	縄文十形 口沿	深 鉢形	C 区 域	11.5 正規	工具による削め方向のナ デ	削め方向のナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	3mm以下の茶褐色、灰白色 2mm以下の茶褐色、灰白色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
77	縄文十形 口沿	深 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向のナデ	横方向のナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色、灰・茶褐色 1mm以下の茶白色、無色透明光沢	外縁はスズ付縦 内面は炭化物付	
78	縄文十形 口沿	深 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	削め方向のナデ 表面粗粒	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	5×4mm以下の茶褐色 3mm以下の茶褐色、灰白、褐色 1mm以下の茶褐色、茶褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
79	縄文十形 口沿	深 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横・斜めの方向のナ デ 表面粗粒は削め方向のナ デ	削め方向のナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	4mm以下の茶褐色、灰・黑褐色、灰褐色 2mm以下の茶褐色、黑褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
80	縄文十形 口沿	深 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色 表面粗粒	削め方向のナデ 表面粗粒	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の灰白色 1mm以下の灰白色、灰白色 1mm以下の灰白色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
81	縄文十形 口沿	深 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色 表面粗粒	削め方向のナデ 工具による削め方向のナ デ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色 1mm以下の茶褐色、灰白色 1mm以下の茶褐色	外縁に付着物 内面は灰皮	
82	縄文十形 口沿	深 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色 表面粗粒	削め方向のナデ 工具による削め方向のナ デ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色 1mm以下の茶褐色、灰白色 1mm以下の茶褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
83	縄文十形 口沿	深 鉢形	C 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	削め方向のナデ 工具による削め方向のナ デ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	3mm以下の茶褐色 2mm以下の茶褐色、灰褐色 1mm以下の茶褐色	内面は灰皮付	
84	縄文十形 口沿	深 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色	削め方向のナデ 工具による削め方向のナ デ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色 1mm以下の茶褐色、灰褐色 1mm以下の茶褐色	内面は灰皮	
85	縄文十形 口沿	深 鉢形	A 区 域	11.5 正規	工具による削め方向のナ デ	工具による削め方向のナ デ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色 1mm以下の茶褐色、灰褐色 1mm以下の茶褐色	内面は灰皮	
86	縄文十形 口沿	深 鉢形	A 区 域	11.5 正規	工具による削め方向のナ デ	削め方向のナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色 1mm以下の茶褐色、灰褐色 1mm以下の茶褐色	内面は灰皮付	
87	縄文十形 口沿	深 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色 表面粗粒	削め方向のナデ 工具による削め方向のナ デ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	0.5mm以下の茶褐色 1mm以下の茶褐色、灰褐色 1mm以下の茶褐色	内面は灰皮	
88	縄文十形 口沿	深 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色 表面粗粒	削め方向のナデ 工具による削め方向のナ デ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色、灰褐色 1mm以下の茶褐色、灰褐色 1mm以下の茶褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	
89	縄文十形 口沿	深 鉢形	A 区 域	11.5 正規	横方向の茶褐色 表面粗粒	削め方向のナデ	灰 灰 灰	灰褐色 にぶい・黄褐色 にぶい・黄褐色	2mm以下の茶褐色 1mm以下の茶褐色、灰褐色 1mm以下の茶褐色	外縁はスズ付縦 内面は灰皮	

第4表 横市中原遺跡 土器観察表4

器物番号	所 在	種 類	出 土 地	基準 (cm)	手法・調度・文様ほか	被 袋	色 調	器物の特徴		考
								外 壁	内 壁	
91	縄文土器	深 手 筒	A 区 域	11.5	横方向の赤褐色、内部は土色	鉛め方の土ガキ	良 好	黄褐色	黄褐色	2mm以下の薄・赤褐色。黑色透明玻璃、白色透明玻璃 外壁はスズ付
92	縄文土器	深 口 筒	A 区 域		工具による横方向のナテ、動植物痕	横方向のナテ	良 好	褐	褐	1mm以下の黑色透明玻璃。灰白・淡褐色 外壁はスズ付
93	縄文土器	深 手 筒	A 区 域		ヘラ状工具によるナテ	丁寧なヘラナテ	良 好	明褐色	明褐色	内壁は黒褐色
94	縄文土器	深 手 筒	C 区 域		横方向の赤褐色、鉛め方のナテ	横方向のナテ	良 好	において濃褐色 灰褐色	灰褐色	2mm以下の灰褐色、灰・赤褐色、黑色透明玻璃 1mm以下の透明白光沢
95	縄文土器	深 手 筒	C 区 域		工具による横ナテ	横方向にミガキ	良 好	において褐色	褐色	2mm以下の灰褐色、灰白色。透明光沢 黒褐色透明白光沢
96	縄文土器	深 手 筒	C 区 域		横方向の赤褐色、工具による斜め方のナテ	横方向のナテ	良 好	において褐色	灰褐色	9mm以下の灰褐色、黄色透明玻璃、1mm以下の褐色透明白光沢 1mm以下の褐色透明白光沢、白色透明玻璃 内壁は黒褐色
97	縄文土器	深 手 筒	C 区 域		横・斜め方の赤褐色	工具による横方向のナテ	良 好	暗灰褐色	灰褐色	2mm以下の灰褐色、灰・赤褐色、黑色透明玻璃 1mm以下の黑色透明玻璃、白目紅
98	縄文土器	深 手 筒	C 区 域	8.5	鉛め・横方向のナテ、側面痕	丁寧なナテ	良 好	において褐色	褐色	3mm以下の灰褐色、黑色透明玻璃 2mm以下の灰褐色
99	縄文土器	深 手 筒	A 区 域	9	ナテ、側面痕	ナテ・側面痕	良 好	灰褐色 灰褐色	灰褐色	2mm以下の灰褐色、1mm以下の褐色透明白光沢 内壁はスズ付
100	縄文土器	深 手 筒	A 区 域		ナテ	ナテ	良 好	において褐色	褐色	2mm以下の透明白光沢、黑色透明玻璃 1mm以下の灰褐色、1mm以下の褐色透明白光沢 外壁はスズ付
101	縄文土器	深 手 筒	A 区 域	5.2	工具による不平行のナテ、ナテ	ミガキ	良 好	褐	褐	2mm以下の透明白光沢、黑色透明玻璃 1mm以下の褐色透明白光沢 内壁は黒褐色
102	縄文土器	深 手 筒	A 区 域		丁寧なナテ	ナテ	良 好	において褐色	褐色	2mm以下の灰褐色、1mm以下の黒褐色、黑色透明玻璃 内壁は黒褐色
103	縄文土器	深 手 筒	A 区 域	9.6	ヘラ状工具による横方向のナテ痕、ナテ	ナテ	良 好	において褐色 灰褐色	灰褐色	3mm以下の灰褐色、1mm以下の灰褐色、1mm以下の褐色透明白光沢 内壁は黒褐色
104	縄文土器	深 手 筒	A 区 域		ナテ	ナテ	良 好	灰褐色	灰褐色	1.5mm以下の灰褐色、半透明
105	縄文土器	深 手 筒	C 区 域	4.8	工具によるナテ	工具によるナテ	良 好	明褐色	明褐色	1mm以下の灰褐色、1mm以下の褐色透明白光沢 内壁は黒褐色
106	縄文土器	深 手 筒	A 区 域		ヘラ状工具によるナテ	ナテ	良 好	褐	褐	2mm以下の黑色透明白光沢、褐色・灰褐色 0.5mm以下の透明白光沢、白色透明玻璃、黑色透明白光沢
107	縄文土器	深 手 筒	A 区 域	9.65	ヘラ状工具による鉛め方のナテ	横方向の丁寧なナテ	良 好	褐色 において褐色	褐色	2mm以下の黑色透明白光沢、黑色透明玻璃 1mm以下の褐色透明白光沢、灰褐色・浅褐色、深褐色、褐色
108	縄文土器	深 手 筒	A 区 域	9	工具による鉛め方のナテ、ナテ	ナテ	良 好	において褐色	褐色	1mm以下の灰褐色、1mm以下の褐色透明白光沢 内壁は黒褐色
109	縄文土器	深 手 筒	A 区 域	10.7	ナテ	ナテ・側面痕	良 好	灰褐色 灰褐色	灰褐色	3mm以下の灰褐色、2mm以下の灰褐色 1mm以下の灰褐色、黑色透明玻璃、透明白光沢
110	縄文土器	深 手 筒	A 区 域	5.2	ミガキ	ミガキ	良 好	において褐色	褐色	1mm以下の褐色、1mm以下の褐色透明白光沢 黑色透明玻璃、黑色透明白光沢
111	縄文土器	深 手 筒	A 区 域		横方向のヘラナテ	丁寧なナテ	良 好	において褐色 灰褐色	灰褐色	3mm以下の灰褐色、1mm以下の褐色透明白光沢 1mm以下の褐色、黑色透明玻璃、1mm以下の褐色透明白光沢 内壁はスズ付
112	縄文土器	深 手 筒	C 区 域		長い横ナテ、底部はミガキ	丁寧な横・鉛め方のナテ	良 好	において褐色 灰褐色	灰褐色	3mm以下の褐色透明白光沢、1mm以下の灰褐色 内壁はスズ付
113	縄文土器	深 手 筒	A 区 域		軽な赤褐色	ミガキ	良 好	において褐色 灰褐色	灰褐色	1mm以下の褐色・深褐色、黑色透明玻璃 内壁はスズ付
114	縄文土器	深 手 筒	C 区 域		軽い赤褐色	工具による横方向のナテ	良 好	明褐色	明褐色	4mm以下の灰褐色、1mm以下の褐色透明白光沢 3mm以下の褐色透明白光沢 1mm以下の褐色透明白光沢 内壁はスズ付
115	縄文土器	深 手 筒	C 区 域	45	表面横ナテ	横ナテ・横方向のミガキ	良 好	灰褐色	灰褐色	1mm以下の褐色透明白光沢 1mm以下の褐色透明白光沢 内壁はスズ付
116	縄文土器	深 手 筒	C 区 域		横方向の長い赤褐色 柱を茎側に捺付	横方向のミガキ	良 好	灰褐色	灰褐色 灰褐色	2mm以下の灰褐色、灰・赤褐色、黑色透明玻璃 1mm以下の褐色透明白光沢 内壁はスズ付
117	縄文土器	深 手 筒	C 区 域		長い横ナテ 柱部はナテ	ヘラ状工具による横方向のナテ	良 好	明褐色 灰褐色	明褐色 灰褐色	1.5mm以下の灰褐色、1mm以下の褐色透明白光沢 1mm以下の褐色透明白光沢 内壁はスズ付
118	縄文土器	深 手 筒	C 区 域		横方向の赤褐色、ナテ	ミガキ	良 好	灰褐色	灰褐色	3mm以下の褐色透明白光沢 2mm以下の褐色透明白光沢、1mm以下の褐色透明白光沢 内壁はスズ付
119	縄文土器	深 手 筒	A 区 域	27.6	横方向のナテ 底部はミガキ	ケツリ加味の長いナテ 底部はミガキ	良 好	明褐色 灰褐色	明褐色 灰褐色	1mm以下の褐色透明白光沢 3mm以下の褐色透明白光沢 内壁はスズ付
120	縄文土器	深 手 筒	C 区 域		横方向の長いヘラナテ 底部はミガキ	鉛め方のナテ 底部はミガキ	良 好	灰褐色	灰褐色	6mm程度の褐色透明白光沢 3mm以下の灰褐色、灰・赤褐色、黑色透明玻璃 内壁は黒褐色

第5表 橋市中西遺跡 土器觀察表5

第6表 横市中原遺跡 土器觀察表6

器物番号	被 墓	器 物 類	出 口	上 点	底面(cm)	子 子・調査・文書ほか	性 質			胎土の特徴	備 考
							外	面	内		
151	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ 縦目附行先端	横方向のハケ目 削痕	良 材	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	2mm以下のにぶい赤褐色、灰褐色 1mm以下の細かな赤褐色	少し風化気味
152	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ 縦目附行先端	横・斜め方向のナデ 削痕	良 材	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	1mm以下のにぶい赤褐色、灰褐色、黒褐色	
153	土師器	黑 陶	C	V	底面	斜め方向のナデ 削痕(縫合部)	斜め方向のナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	1mm以下の白、褐色化	外側はスス付箋 内側は墨塗
154	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ 縦目附行先端	斜め方向のナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	1mm以下の白、褐色化	
155	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	工具による縫・斜め方向 のナデ 縫合部(縫合部)	工具による縫・斜め方向 のナデ 縫合部(縫合部)	良 材	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	2mm以下の灰褐色、灰・褐・青褐色 1mm以下の削痕先端	外側はスス付箋
156	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	工具による縫・斜め方向 のナデ 縫合部(縫合部)	工具による縫・斜め方向 のナデ 縫合部(縫合部)	良 材	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	0mm以下の灰褐色 3mm以下の灰褐色・灰・褐・青褐色 2mm以下の削痕先端、無色化物	10cm以上12cm 内側は墨塗
157	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	斜め方向のナデ 縫合部	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	3mm以下のにぶい赤褐色 1.5mm以下の褐色化	外側は黒皮
158	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	斜め方向のナデ 斜め方向のナデ ナデ 不規則なナデ	斜め方向のナデ 斜め方向のナデ ナデ 不規則なナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	2.5mm以下の褐色化 1.5mm以下の褐色化・灰色化	
159	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	ナデ 縦目附行先端	ナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	4mm以下の灰褐色、灰褐色、灰褐色 2.5mm以下のにぶい赤褐色、削痕先端	外側はスス付箋
160	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	ナデ 縦目附行先端	ナデ 削痕	良 材	西洋陶 削痕	3mm以下の灰褐色・灰・青褐色、褐色化 1mm以下の灰褐色・灰・青褐色、褐色化	外側はスス付箋
161	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	斜め方向のヘラナデ 斜め方向のヘラナデ 削痕(縫合部)	斜め方向のヘラナデ 斜め方向のヘラナデ ナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	3.5mm以上の削痕・赤褐色、灰褐色、白褐色 1.5mm以下の削痕・白色化	内側は墨塗
162	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ ナデ 削痕(縫合部)	ナデ	良 材	黄褐色 黄褐色	1mm以下の削痕、白色、灰・褐色化 4mm以下の削痕、白色化	
163	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ (主)による斜め方向のナ デ 削痕(縫合部)	斜め方向のナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	1mm以下の灰褐色・青褐色、褐色化 0.5mm以下の褐色化	
164	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	斜め方向のナデ 斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	斜め方向のナデ 斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	2mm以下の褐色化 1mm以下の褐色化 無色化	外側はスス付箋 内側は墨塗
165	土師器	黑 陶	C	V	底面	斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	斜め方向のナデ	良 材	削痕 削痕	2mm以下の褐色化 1mm以下の褐色化 無色化	
166	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	斜め方向のナデ 斜め方向のナデ 斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	斜め方向のナデ 斜め方向のナデ 斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	4mm以下の褐色化 2mm以下の褐色化 1mm以下の褐色化 無色化	
167	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ 斜め方向のナデ 斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	ナデ 斜め方向のナデ 斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	良 材	にぶい 黄褐色 にぶい 黄褐色	5×6mmの穴孔による褐色化 1mm以下の灰褐色・黑色化	
168	土師器	黑 陶	C	V	底面	斜め方向のナデ ナデ 削痕(縫合部)	斜め方向のナデ ナデ 削痕(縫合部)	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	2mm以下の褐色化 0.5mm以下の褐色化 無色化	
169	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ ナデ 削痕	ナデ ナデ 削痕	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	2mm以下の褐色化 0.5mm以下の褐色化	外側はスス付箋
170	土師器	黑 陶	C	V	底面	斜め方向のナデ 斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	斜め方向のナデ 斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	2mm以下のにぶい赤褐色 1mm以下の褐色化 無色化	外側はスス付箋
171	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	ナデ 斜め方向のナデ 縫合部(縫合部)	斜め方向のナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	3mm以下の削痕・灰・褐・黑褐色化、透 明光沢化	外側はスス付箋 内側は墨塗
172	土師器	黑 陶	C	V	底面	斜め方向のナデ	斜め方向のナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	2mm以下の白、褐色化	
173	土師器	黑 陶	C	V	底面	斜め方向のナデ 斜め方向のナデ	斜め方向のナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	2mm以下の灰褐色、灰褐色化 1mm以下の褐色化	外側はスス付箋 内側は墨塗
174	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ 削痕	ナデ 削痕	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	2mm以下の灰・褐・青褐色化 1mm以下の削痕先端	
175	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ 削痕	ナデ 削痕	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	3mm以下の灰・青褐色化 2mm以下の褐色化 1mm以下の褐色化	
176	土師器	黑 陶	C	V	底面	斜め方向のヘラナ ナデ 斜め方向のヘラナ ナデ	斜め方向のヘラナ ナデ 斜め方向のヘラナ ナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	4mm以下の褐色化 1.5mm以下の褐色化 2mm以下の褐色化	
177	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	(主)によるナデ ナデ	工具による斜め方向のナ デ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	1.5mm以下の半透明光沢化 無色化	外側はスス付箋
178	土師器	黑 陶 縫合部	C	V	底面	ヘラ工具による斜め方 向の丁寧なナデ	斜め方向の丁寧なナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	2mm以下の灰褐色・灰・褐・黑褐色化 1.5mm以下の褐色化	外側はスス付箋
179	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ 一張詰め方向の工具痕	ナデ	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	2mm以下の灰褐色・灰・褐・黑褐色化	黒化
180	土師器	黑 陶	C	V	底面	ナデ	工具痕	良 材	にぶい 黄褐色 黄褐色	無色～2mm以下の灰・褐・黑褐色化	内外とも薄茶色 無色化

第7表 横市中原遺跡 土器観察表

順位 番号	種別	器種	地 点	位置 (cm)	手形・表面・文様はか け		底成	白 色			出土の特徴	著者	
					口付 底部	底面		外 面	内 面	另 面	内 面		
181	土師器	壺	東第一-底部	C K V 底		工具による縦方向のナデ 削り方のナデ	底方向のナデ	良 好	にない・薄 にない・陶 現兆底	2mm以下の灰黄・灰白・灰・褐色 1mm以下の透明・黑色太鉄斑	106と125と 同一個体		
182	土師器	壺	東 底	C K V 底	4.5	工具による横・斜め方向 のみのナデ	工具による横・斜め方向 のみのナデ	良 好	にない・薄 にない・陶	1mm以下の無色透明光沢底、現兆・底 底・灰片紅	外面にスズ付面 内面は底面		
183	土師器	壺	底 底	C K V 底	5.5	不定方向のナデ	削り方のナデ 削り方底	良 好	にない・薄	にない・黄	1mm以下の黒・灰褐色	外面にスズ付面	
184	土師器	壺	東 底	C K V 底	6.9	底方向のナデ 削り方底	横右側のヘラナデ	良 好	粗	粗	2mm以下の茶・褐・紫・黑色底 1mm以下の黑色光沢底		
185	土師器	壺	東 底	C K V 底	5.1	削り方のナデ 削り方底	軸ナデ	良 好	にない・薄	反	4mm以下の灰黄・灰・褐・赤褐色 1.5mm以下の透明光沢底		
186	土師器	壺	東 底	C K V 底	9.25	工具による横・斜め方向 のみのナデ	工具による横・斜め方向 のみのナデ	良 好	にない・薄	にない・褐	1mm以下の透明光沢底 1mm以下の灰黄・黑色 現兆底		
187	土師器	壺	東 底	C K V 底	8.9	底方向のナデ	工具による横・斜め方向 のみのナデ	良 好	にない・黄 にない・黄	にない・黄 にない・黄	2mm以下の灰黄・褐色・黑色底		
188	土師器	壺	東 底	C K V 底		横方向のナデ	横・斜め方向のナデ	良 好	にない・薄	にない・褐	2mm以下の灰色底 1mm以下の褐色・底色底、黑色太鉄斑		
189	土師器	壺	東 底	C K V 底		縦方向のナデ 削り方底	縦方向のナデ	良 好	粗	粗	3mm以下の所生色 2mm以下の透明光沢底 1mm以下の黑色光沢底	外面にスズ付面	
190	土師器	小型壺 口付-削底	A V 底	A V 底	12.6	底方向のカッコ II削底は小ナデ	軸ナデ カズリ	良 好	にない・薄	にない・黄	4mm以下の透明光沢底	185と同一個体	
191	土師器	小型壺 底	A V 底	A V 底		平面方向のハケナデ	軸ナデ 削底	良 好	にない・薄	にない・黄	4mm以下の所生色	185と同一個体	
192	土師器	口 底	C K V 底			底方向のナデ 削底 II削底は楕円孔のナデ	削底のナデ 削底 II削底は楕円孔のナデ	良 好	にない・黄 にない・黄 にない・黄	にない・黄 にない・黄 にない・黄	1.5mm以下の無色透明光沢底、半透明 底黄・灰口・黑色底		
193	土師器	壺	東 底	C K V 底		工具による横・横方向の ナデ	工具による不定方向のナ デ	良 好	にない・黄 にない・黄 にない・黄	にない・黄 にない・黄 にない・黄	1mm以下の無色底 干透底の所生色底	黒化現象 外面上にスズ付面 内面に黄色付面	
194	土師器	壺	東 底	C K V 底		丁字ナデナデ、横方向の ナデ	丁字ナデ 横ナデ	良 好	透明底 透明底	にない・黄 にない・黄	最初~2mm以下の茶青・青黄・褐・暗紅 透明光沢底 黑色底	外面上に所生色 干透底 内面とも黒化	
195	土師器	壺	東 底	C K V 底		ナデ	ナデ 削底	良 好	にない・薄	にない・黄	1mm以下の茶青・青黄・褐・暗紅 透明光沢底	黒化現象 外面上にスズ付面 内面とも黒化	
196	土師器	壺 耳 耳 耳 耳 耳	C K V 底	C K V 底	16.1	底方向のカッコ II耳ナデ、斜め方向のミ ガキナデ	丁字ナデ 工具による斜め方向のナ デ	良 好	にない・薄 にない・薄	にない・黄 にない・黄	褐色~2mm以下の茶青・青黄・褐・暗紅 透明光沢底 黑色底		
197	土師器	壺	東 底	C K SA2 V 底		斜め方向にへたり ミガキナデ、横方向にナ デ	工具を押しこなかられたト ナデ	良 好	にない・薄	にない・黄	1.5mm以下の茶青・青黄・黑色底 黑色光沢底		
198	土師器	壺	東 底	C K V 底		横方向のナデ	横ナデ 横方向のナデ	良 好	にない・黄	にない・黄	1.5mm以下の茶青・青黄・黑色底 黑色光沢底		
199	土師器	壺	東 底	C K V 底		斜め方向のミガキ ナデ	横ナデ 削底	良 好	にない・薄	にない・黄	1mm以下の茶青・青黄・黑色底 黑色光沢底	内面にスズ付面	
200	土師器	壺	東 底	C K V 底		ミガキ	横ナデ	良 好	にない・薄	にない・黄	2mm以下の茶青・青黄・黑色底 黑色光沢底	外面上にスズ付面	
201	土師器	壺	東 底	C K V 底		横ナデのナデ II削底に工具による脱錆	横ナデ	良 好	にない・薄	にない・黄	2mm以下の茶青・青黄・黑色底 黑色光沢底	外面上にスズ付面	
202	土師器	壺	東 底	A V 底	13.2 8.2	横斜ナデ	ナデ	良 好	浅黄	浅黄	3mm以下の茶青・黑色底 1mm以下の茶青・黑色底		

第8表 横市中原遺跡 石器計測表

番号	出土地点	器種	計測値				石材	備考
			最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)		
203	A区SA2	磨石	7.15	6.35	4.5	306.0	砂岩	
204	AKSA4	磨石	6.6	5.6	3.6	164.0	砂岩	
205	AIKS-E-1	磨製石斧	4.45	3.3	1.8	26.6	砂岩	
206	C区SA2	石皿	37.3	32.3	5.9	8000.0	輝石安山岩	
207	A区V層	石礫未製品	2.7	2.4	1.0	5.0	チャート	
208	A区VI層	石礫未製品	3.3	2.9	1.2	11.0	石英	
209	C区V層	石礫未製品	5.7	5.1	1.4	23.2	砂岩	
210	A区VI層	石錐	2.3	1.4	0.8	2.0	チャート	
211	C区V層	石錐	2.0	1.7	0.8	1.9	サヌカイト	
212	C区V層	石錐	3.05	1.3	0.5	1.6	チャート	
213	A区VI層	スクレイパー	10.1	5.9	1.1	118.0	輝石安山岩	
214	A区V層	スクレイバー	11.3	4.4	2.5	100.0	ホルンフェルス	
215	C区V層	スクレイバー	7.0	7.4	1.5	70.0	輝石安山岩	
216	C区VI層	スクレイバー	4.1	4.1	1.3	19.0	輝石安山岩	
217	A区V層	剥片	8.0	3.1	1.5	37.0	輝石安山岩	石斧関連資料
218	A区VI層	剥片	11.5	6.9	4.4	282.0	輝石安山岩	石斧関連資料
219	A区V層	剥片	2.3	1.6	0.3	1.0	サヌカイト	
220	C区V層	剥片	10.2	7.2	3.0	194.0	輝石安山岩	石斧関連資料
221	C区VI層	剥片	15.2	4.3	1.9	166.0	輝石安山岩	石斧関連資料
222	C区V層	剥片	6.1	10.3	2.3	130.0	輝石安山岩	石斧関連資料
223	C区VI層	剥片	8.7	7.6	1.2	68.0	砂岩	石斧関連資料
224	B区VI層	剥片	10.3	5.8	2.4	132.0	輝石安山岩	石斧関連資料
225	A区V層	二次加工剥片	1.8	1.3	0.8	1.0	黒曜石	
226	C区V層	二次加工剥片	2.2	1.6	0.5	2.0	チャート	
227	C区VI層	二次加工剥片	3.35	1.95	1.15	7.0	石英	
228	A区VI層	二次加工剥片	12.1	5.2	4.9	292.0	輝石安山岩	石斧関連資料
229	A区V層	二次加工剥片	11.0	4.4	1.8	83.0	砂岩	石斧関連資料
230	A区V層	二次加工剥片	10.2	8.3	2.6	218.0	輝石安山岩	石斧関連資料
231	A区VI層	二次加工剥片	5.7	1.8	1.5	16.0	輝石安山岩	石斧関連資料
232	C区V層	使用痕剥片	12.9	6.5	1.5	142.0	砂岩	
233	A区V層	石核	15.2	9.1	6.75	1270.0	輝石安山岩	石斧関連資料
234	A区VI層	石核	10.6	9.4	4.8	690.0	輝石安山岩	石斧関連資料
235	A区VI層	石核	4.4	4.9	4.5	144.0	輝石安山岩	石斧関連資料
236	A区VI層	石核	1.75	2.05	2.3	12.0	黒曜石	
237	C区VI層	石核	9.1	7.2	3.0	382.0	輝石安山岩	石斧関連資料
238	C区V層	石核	12.8	7.8	6.4	645.0	輝石安山岩	石斧関連資料
239	C区V層	石核	4.3	4.5	2.1	37.0	チャート	
240	C区VI層	石核	3.2	2.3	1.5	9.0	ホルンフェルス	
241	A区V層	打製石斧	14.0	6.7	2.1	188.0	輝石安山岩	
242	A区VI層	打製石斧	11.7	5.2	1.5	110.0	ホルンフェルス	
243	A区VI層	打製石斧	15.7	10.2	2.05	358.0	輝石安山岩	
244	A区VI層	打製石斧	6.9	5.8	1.5	76.0	輝石安山岩	
245	A区VI層	打製石斧	10.2	6.1	1.9	116.0	砂岩	
246	C区V層	打製石斧	5.3	6.1	1.4	67.0	輝石安山岩	
247	C区VI層	打製石斧	3.0	3.8	1.2	15.0	輝石安山岩	
248	C区VI層	打製石斧	15.9	6.4	2.2	180.0	砂岩	
249	C区V層	磨製石斧	7.7	6.1	2.5	208.0	砂岩	
250	A区VI層	磨製石斧	6.4	2.5	1.4	32.0	砂岩	
251	A区V層	磨製石斧	4.9	3.4	2.3	47.0	砂岩	
252	A区VI層	磨製石斧	5.8	3.8	2.8	61.0	ホルンフェルス	
253	C区V層	磨製石斧	8.1	5.7	1.5	91.0	ホルンフェルス	
254	A区VI層	砾石	5.7	5.6	5.3	220.0	輝石安山岩	
255	A区VI層	砾石	5.3	4.8	3.3	102.0	輝石安山岩	
256	A区VI層	砾石	6.0	5.4	3.5	186.0	輝石安山岩	
257	A区V層	砾石	6.4	6.4	2.1	97.0	砂岩	
258	A区VI層	砾石	6.45	4.95	2.7	122.0	砂岩	
259	A区V層	砾石	6.5	5.05	5.45	243.7	輝石安山岩	
260	A区VI層	砾石	6.2	10.3	4.9	404.8	砂岩	
261	A区VI層	砾石	10.8	9.15	4.2	550.0	砂岩	
262	C区VI層	砾石	13.2	10.3	5.1	950.0	溶結凝灰岩	
263	C区V層	砾石	6.5	6.8	3.1	304.0	砂岩	
264	B区V層	砾石	8.2	7.5	0.6	39.9	砂岩	
265	C区V層	砾石	6.3	2.85	1.75	64.0	粘板岩	
266	C区V層	石頭	24.2	17.8	2.4	930.0	砂岩	
267	B区V層	石塊	9.0	4.5	0.9	59.2	ホルンフェルス	
268	C区VI層	擦痕ある石器	4.8	3.2	0.6	13.0	頁岩	
269	A区VI層	異形石器	1.1	1.8	0.4	0.6	チャート	

## 第IV章 まとめ

横市中原遺跡は、庄内川・横市川他の中小河川によって剖析されつつある月野原・牧の原・養原各台地の西方に広がる低丘陵に続く微高地上に点在した遺跡群の一つであったことが明らかになった。これらの遺跡は、縄文時代から断続的ながらも連続と営まれており、一帯が各時代を通じて人々の生活にとって適地であったことを窺わせる。

ここでは、調査で確認された遺構や遺物について簡単にまとめてみたい。

### 縄文時代

縄文時代の遺構としては、A区で竪穴住居跡を3軒と土坑7基を検出した。しかし、第VII層（御池軽石層）上面で最終的な遺構の検出を行ったため、竪穴住居跡の大半は床面のみの検出である。平面プランの範囲と第VI層の遺物分布がほぼ重なることから、遺構のほとんどは第VI層を掘り込んで構築されているものと思われる。埋土出土の土器が小片で少量のため、断定することは難しいが、埋土状況及び出土遺物から後期から晩期にかけての遺構と考えられる。竪穴住居跡SA1は方形を呈し、柱穴を1基のみ検出した。SA2は柱穴2基を有する隅丸方形住居で焼土坑から外面にススが付着した深鉢や炭化した種子、敲石等が出土した。SA3は方形プランを呈し、柱穴を4基と中央に土坑を検出した。土坑はほとんど楕円形かそれに類似したプランを呈し、埋土も同じように類似し、自然堆積している。出土遺物は少ないが、深鉢の脇部や粗製浅鉢で編布压痕の底部が出土した土坑も見られた。

縄文時代の土器は後期から晩期のものが多を占める。後期の土器としては、貝殻腹縫による連續刺突文を施す丸尾式と思われる土器等があるが個体数は非常に少ない。晩期の土器としては、主なものは組織痕土器や孔列文土器、貼付刻目突帯文土器、黒色磨研土器の黒川式土器と思われる土器等がある。当遺跡に隣接する牧の原第2遺跡で組織痕土器、近隣の養原遺跡では黒川式土器や貼付突帯文土器、肱穴遺跡では刻目突帯文土器や組織痕土器、中尾山・馬渡遺跡では孔列文土器や組織痕土器等が出土しており、当遺跡との関連性が注目される。

### 弥生時代

弥生時代の遺構では、A区で竪穴住居跡を1軒検出した。平面プランは方形を呈し、柱穴は1基のみの検出である。出土遺物は貼付刻目突帯の甕や壺などが出土地しておらず、前期の土器と考えられる。また、B区で石庖丁が1点出土しているが遺構に伴わず、包含層中からの出土である。当遺跡南東の坂元A遺跡では概に縄文時代晩期の水田跡が確認されており、当遺跡との関連性も考えられる。しかし、遺構数や遺物量が少ないので、弥生時代の生活の様子を今回くわしく把握することはできなかった。

### 古墳時代

古墳時代の遺構では、B区で土坑を3基とC区で竪穴住居跡を2軒検出した。B区のSC2では古墳時代の頭部に貼付刻目突帯の甕が数点出土した。C区のSA1は方形を呈するもので、柱穴を4基検出した。また、中央部に焼土坑も確認できた。出土遺物は甕や丸底の壺等である。SA2も方形を呈するもので、柱穴を2基検出し、また、間仕切り壁も造られている。出土遺物は高坏や貼付刻目突帯を持つ甕、丸底や平底の壺等である。

古墳時代の土器については甕・壺・高坏・鉢・坏などが出土しているが、甕が主流を成し、貼付突帯を持たないものと持つものに分類できる。前者は頭部にくびれのあるものと無いものとに分けられる。

後者は南九州独自の成川式土器で頸部にくびれを持ち、くびれ部およびくびれ部下に貼付刻目突帯を持つものと頸部にくびれを持たないものに分けられる。これらの土器は県内においてえびの市妙見遺跡や高原町荒迫遺跡等で報告されている。これらについては、6世紀中頃の年代観が与えられているが、当遺跡においては出土遺物の特徴も踏まえて、6世紀前半から中頃の年代観が比定される。当遺跡に隣接する上牧第2遺跡や母智丘原第2遺跡、牧の原第2遺跡等でも成川式土器と思われる土器が出土しており、当遺跡との関連性が窺える。

## 中世

中世は桜島文明軽石の残存状況が最も良好であったD区北端部で小溝状遺構（畠跡）を確認することができた。遺物が出土していないため具体的な造営年代は判断できないが、桜島文明軽石が堆積した小溝の復旧を行っていることから、15世紀後半には小溝状遺構の造営をおこなっていたと思われる。また、この小溝状遺構を造営した集団の生活跡については、今回の調査では検出することができなかつた。なお、近接する中尾遺跡・裴原遺跡でも桜島文明軽石によってパックされた畠跡が検出されているので、今後の検証により当時の生活跡や土地利用のあり方が徐々に明らかにされていくものと思われる。

## 石器及び鉄器

石器は輝石安山岩・砂岩製の石斧とその他チャート・ホルンフェルス等の剥片石器に大別される。剥片石器類では石鎌、スクレイパー、石錐、石核、剥片などいろいろな器種の石器が出土した。石材は砂岩、チャート、黒曜石、ホルンフェルス、サヌカイトなど多様である。一方石斧については、ほとんど輝石安山岩製で占められる。この石材は母智丘周辺が原産地であると思われ、石斧製作にあたっては、在地石材が多用された事が考えられる。また、製作途上の石斧や輝石安山岩の母岩、石核、剥片も多量に出土していることから、遺跡内で石斧製作も行われていたものと考えられる。また、敲石・磨石・砥石等も出土している。

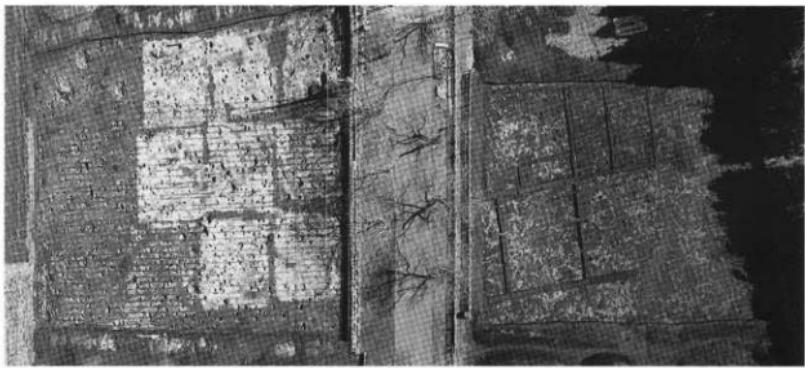
鉄器は鉄鎌1点のみの出土であり、時期については不明である。

## 参考・引用文献

- |  |                   |
|--|-------------------|
| 「黒土遺跡」『都城市文化財調査報告書』第28集                      | 宮崎県都城市教育委員会 1994  |
| 「荒迫遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第11集              | 宮崎県埋蔵文化財センター 1998 |
| 「牧の原第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第19集           | 宮崎県埋蔵文化財センター 1999 |
| 「上牧第2遺跡 母智丘原第2遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第18集   | 宮崎県埋蔵文化財センター 1999 |
| 「梅北佐土原遺跡 中尾遺跡 裴原遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第42集 | 宮崎県埋蔵文化財センター 2001 |
| 「木脇遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第43集              | 宮崎県埋蔵文化財センター 2001 |
| 「王子原遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第45集             | 宮崎県埋蔵文化財センター 2001 |
| 「布平遺跡 古城遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第74集         | 宮崎県埋蔵文化財センター 2003 |
| 「横市地区遺跡群」『都城市文化財調査報告書』第50集                   | 都城市教育委員会 2000     |
| 「横市地区遺跡群」『都城市文化財調査報告書』第55集                   | 都城市教育委員会 2001     |
| 「古文化談叢」第43集                                  | 九州古文化研究会 1999     |



横市中原遺跡 全景（南上空から）

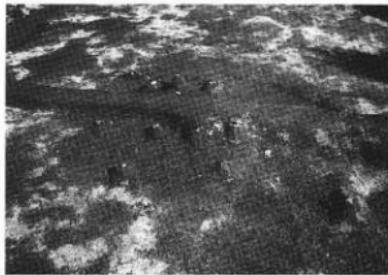


横市中原遺跡 A-B区遺構検出状況（垂直）

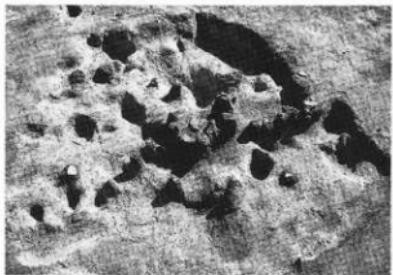
横市中原遺跡 圖版2



横市中原遺跡 C区遺構検出状況（垂直）



横市中原遺跡 A区SA2検出状況（南東から）



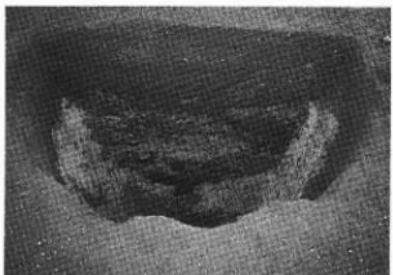
横市中原遺跡 A区SA2遺物出土状況（南東から）



横市中原遺跡 A区SA3埋土状況（北から）



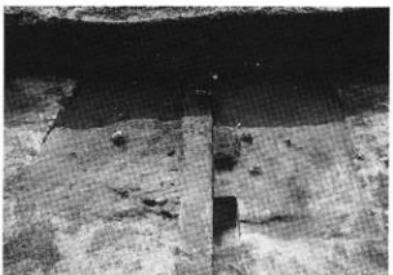
横市中原遺跡 A区SE1完掘状況（東から）



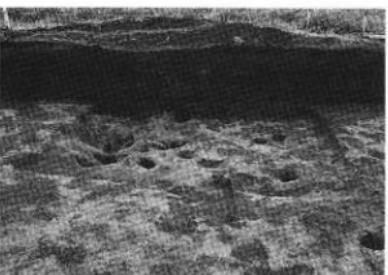
横市中原遺跡 B区SC1半截状況（東から）



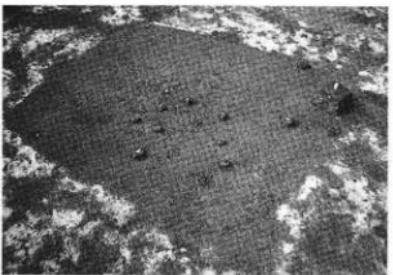
横市中原遺跡 B区SC2検出状況（西から）



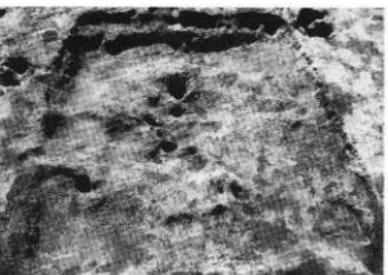
横市中原遺跡 C区SA1遺物出土状況（東から）



横市中原遺跡 C区SA1完堀状況（東から）



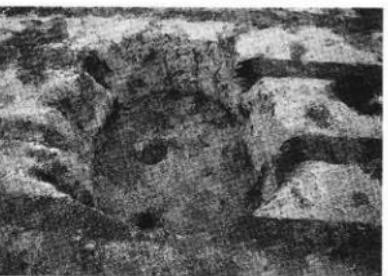
横市中原遺跡 C区SA2検出状況（南東から）



横市中原遺跡 C区SA2完堀状況（東から）

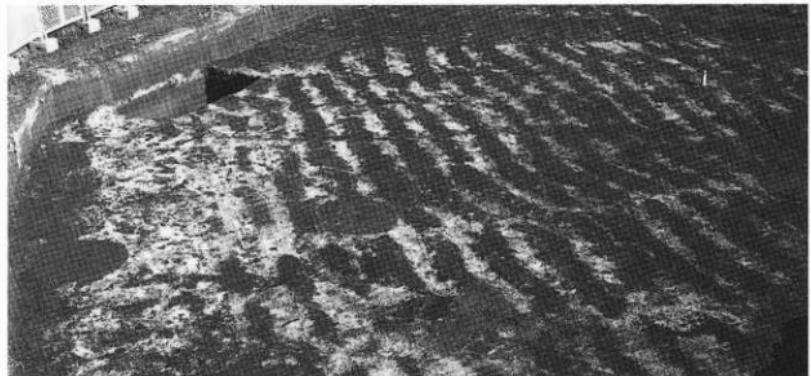


横市中原遺跡 C区SC2・SC3完掘状況（南西から）

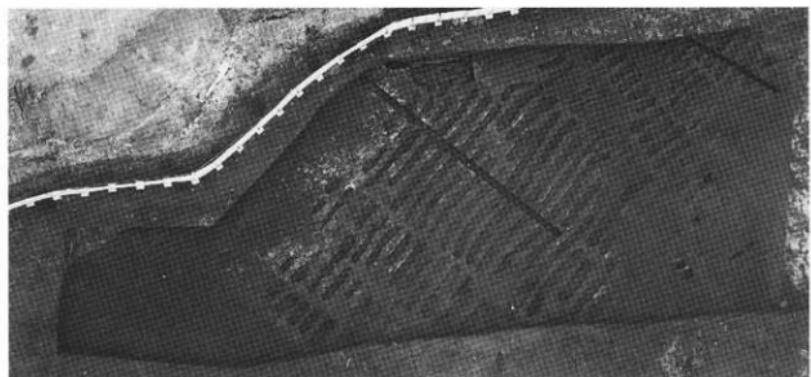


横市中原遺跡 C区SC4完掘状況（南から）

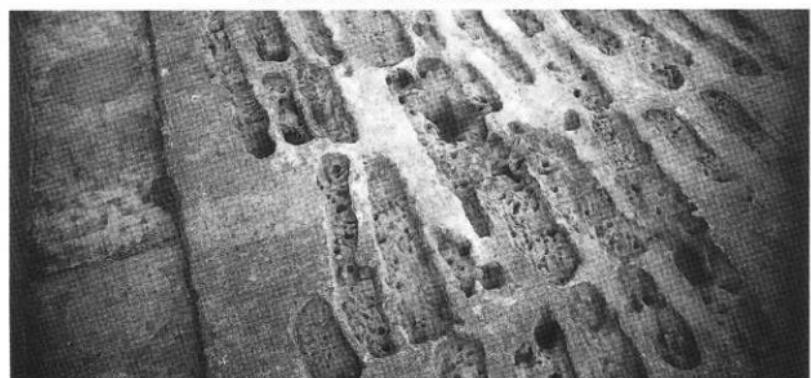
横市中原遺跡 図版4



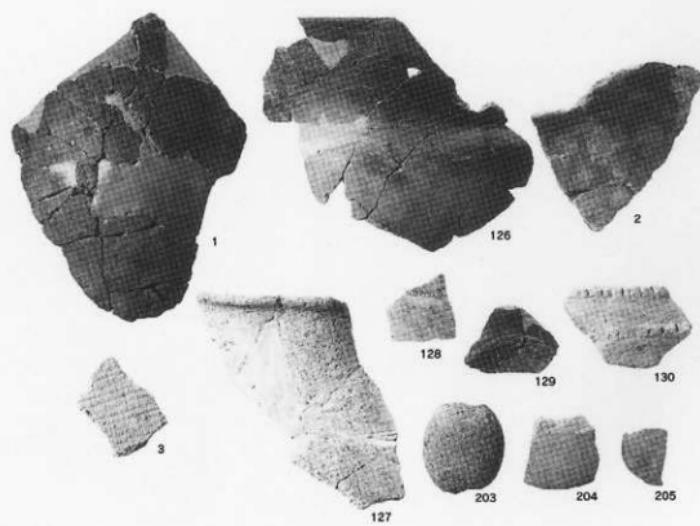
横市中原遺跡 C区小溝状遺構検出状況（北西から）



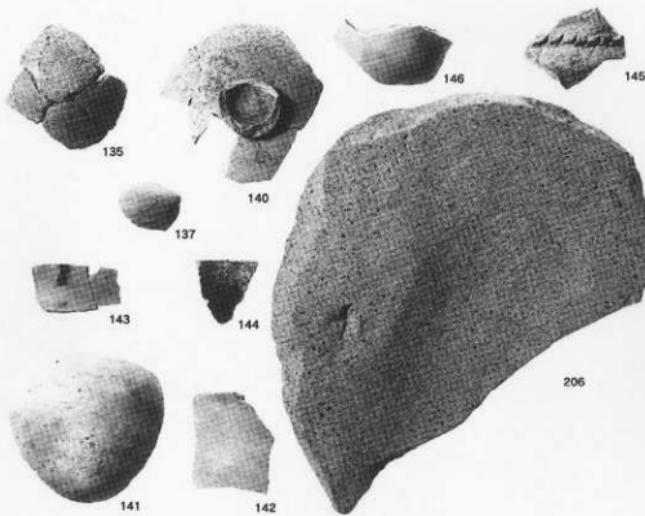
横市中原遺跡 C区小溝状遺構完掘状況（垂直）



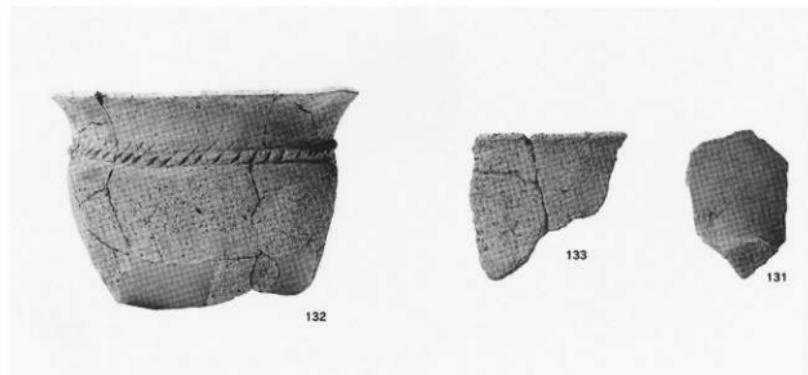
横市中原遺跡 C区小溝状遺構下復旧痕検出状況（北西から）



横市中原遺跡 A区遺構内出土遺物 (SA2:1-126・203、SA4:127~130・204、SC4:2、SC6:3、SE1:205)



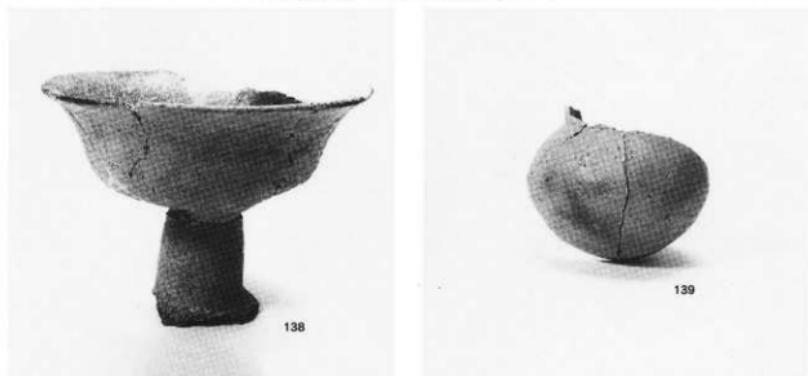
横市中原遺跡 C区SA1・SA2出土遺物 (SA1:135-137、SA2:140~146・206)



横市中原遺跡 B区出土遺物（壺、SC2:132・133、131（V層））

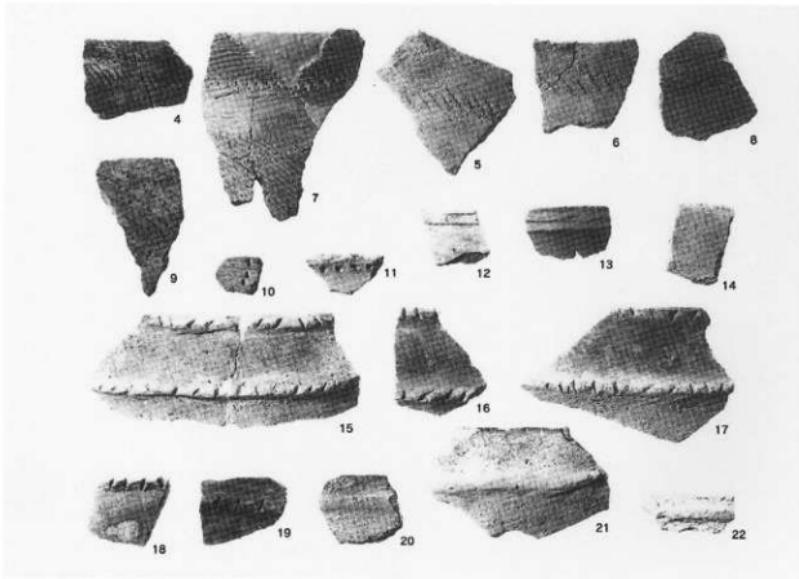


横市中原遺跡 C区SA1出土遺物（壺・壺）

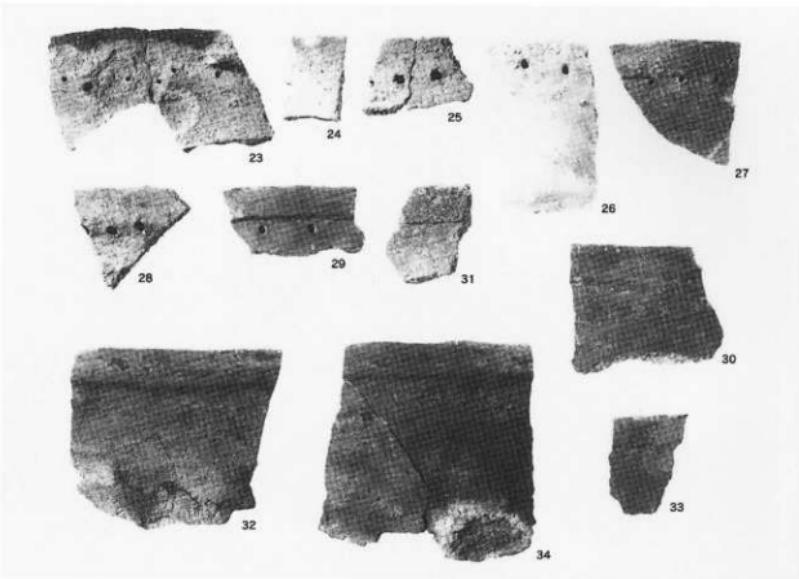


横市中原遺跡 C区SA2出土遺物（高壺）

横市中原遺跡 C区SA2出土遺物（小型丸底壺）

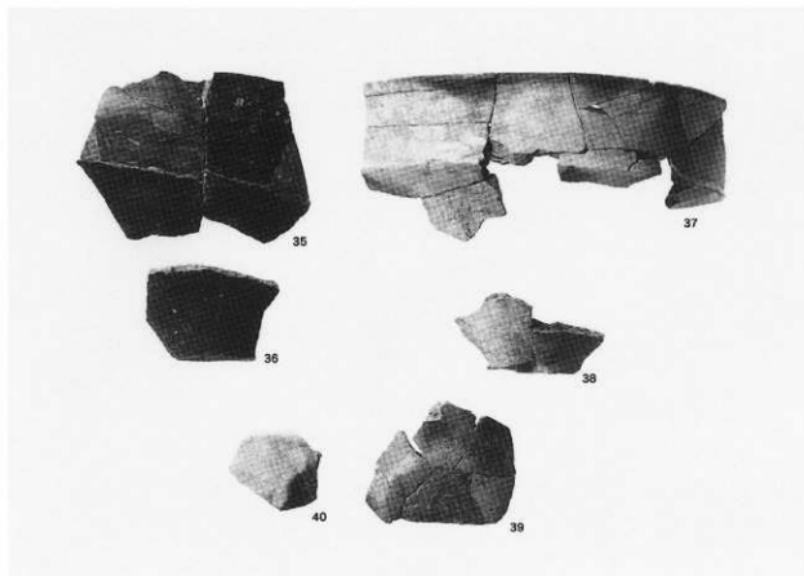


横市中原遺跡 繩文土器1 (I・II類)

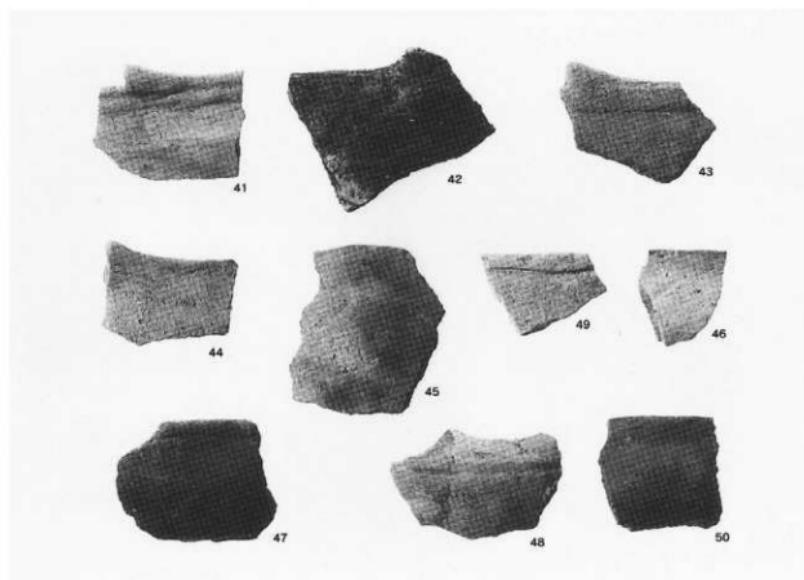


横市中原遺跡 繩文土器2 (III・IV類)

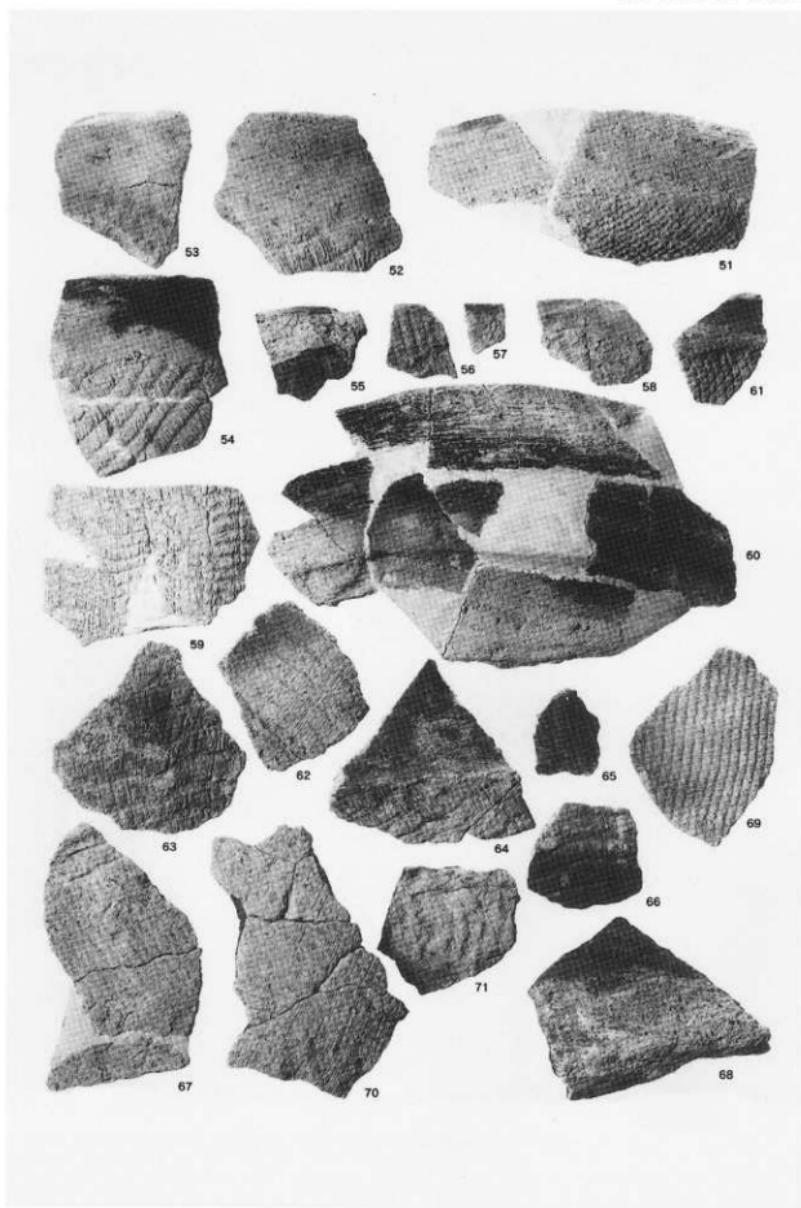
横市中原遺跡 圖版8



横市中原遺跡 繩文土器3（V類）

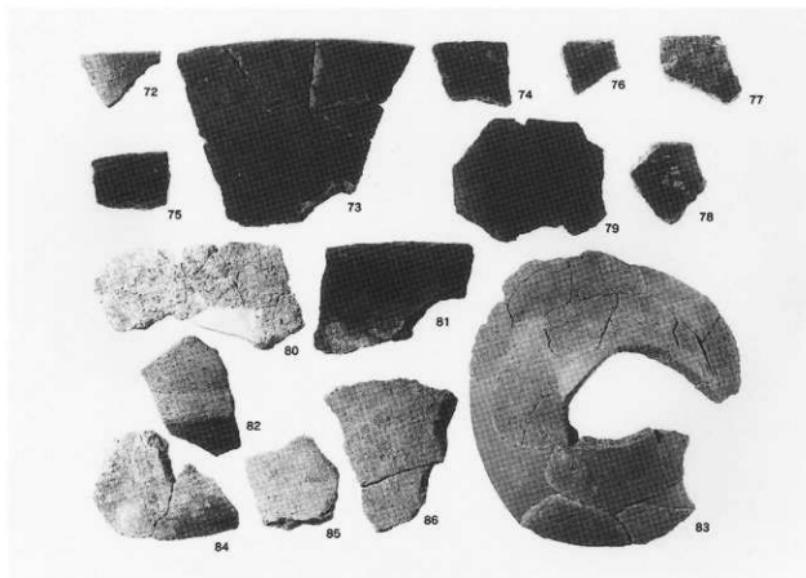


横市中原遺跡 繩文土器4（VI類）

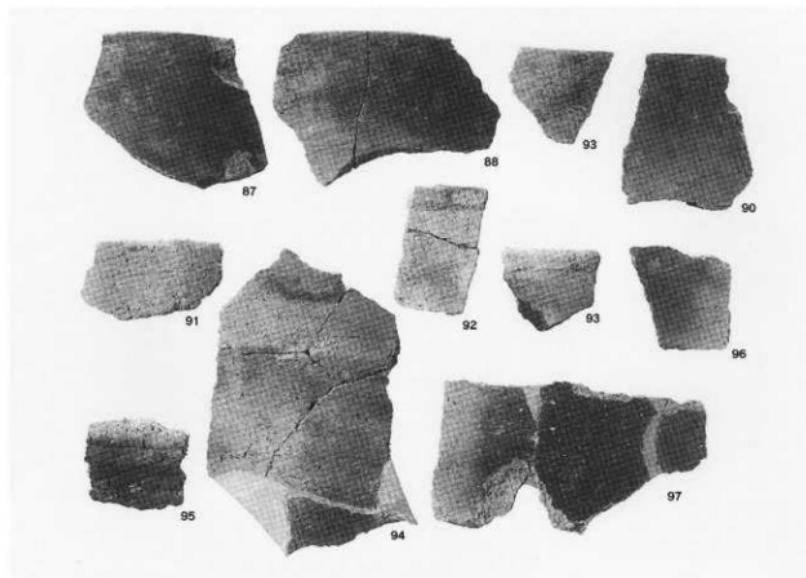


横市中原遺跡 繩文土器5 (VII類、組織痕土器)

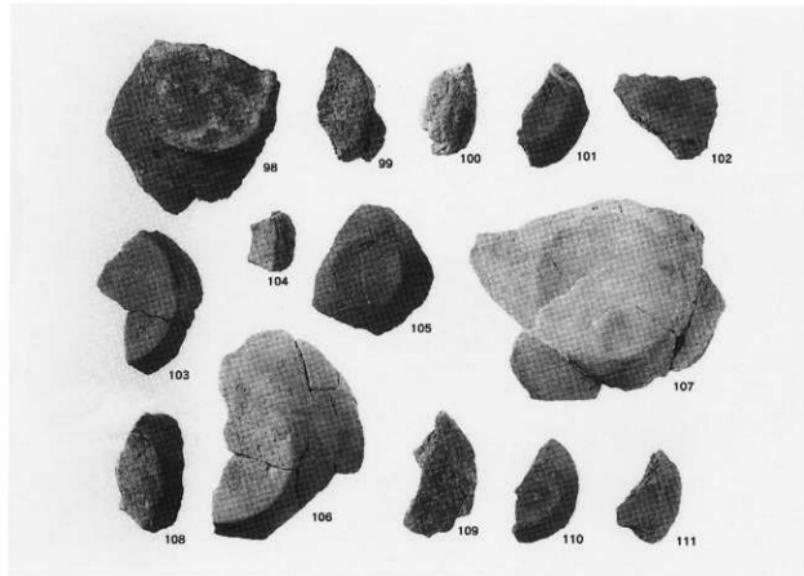
横市中原遺跡 圖版10



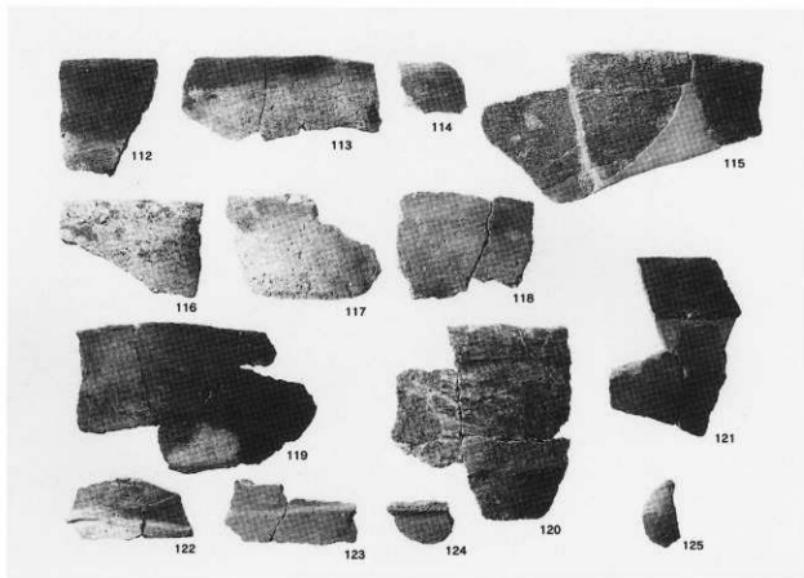
横市中原遺跡 繩文土器6（Ⅵ類）



横市中原遺跡 繩文土器7（Ⅶ類）

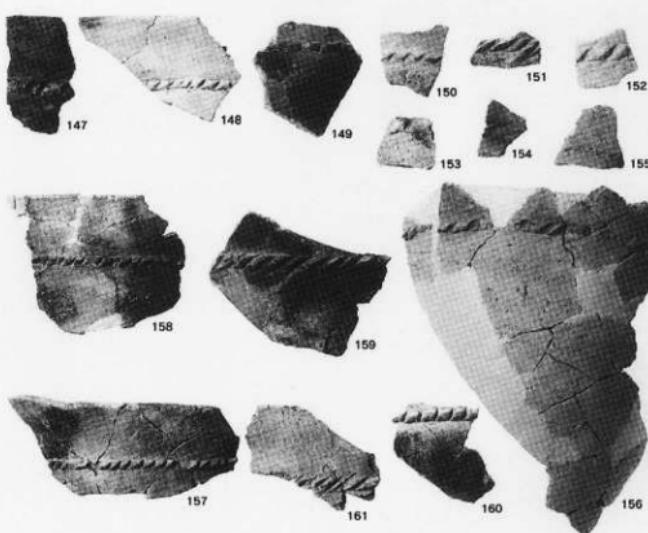


横市中原遺跡 繩文土器8（X類）

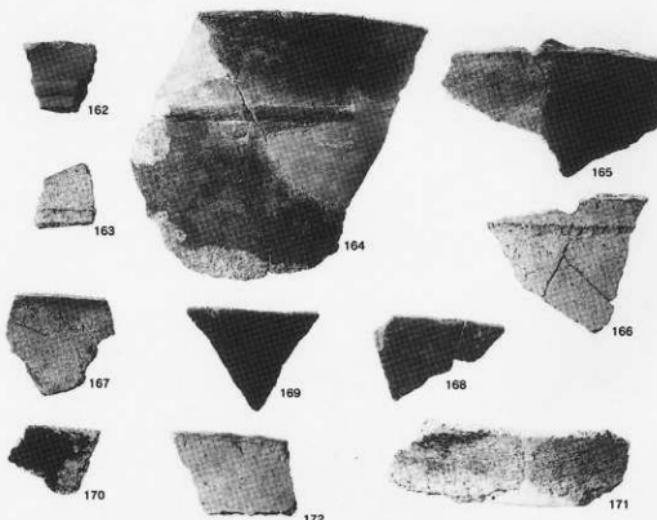


横市中原遺跡 繩文土器9（XII類・XIII類・XIV類）

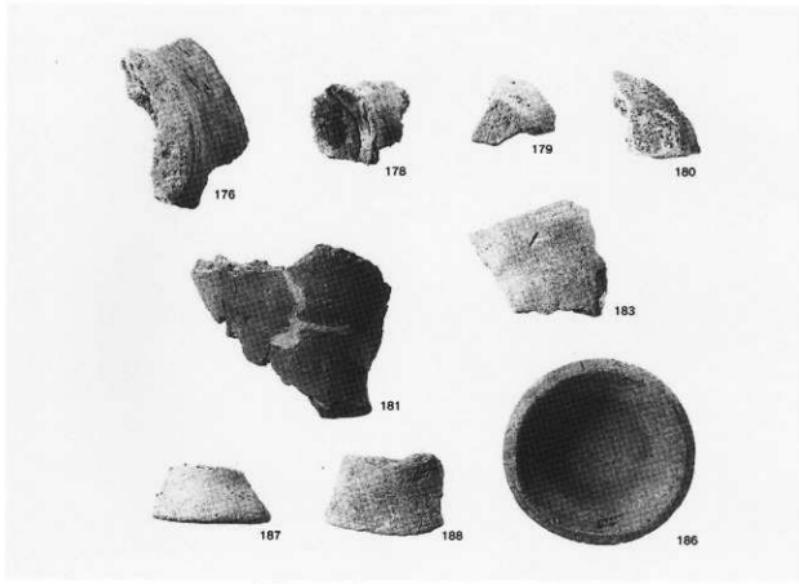
横市中原遺跡 圖版12



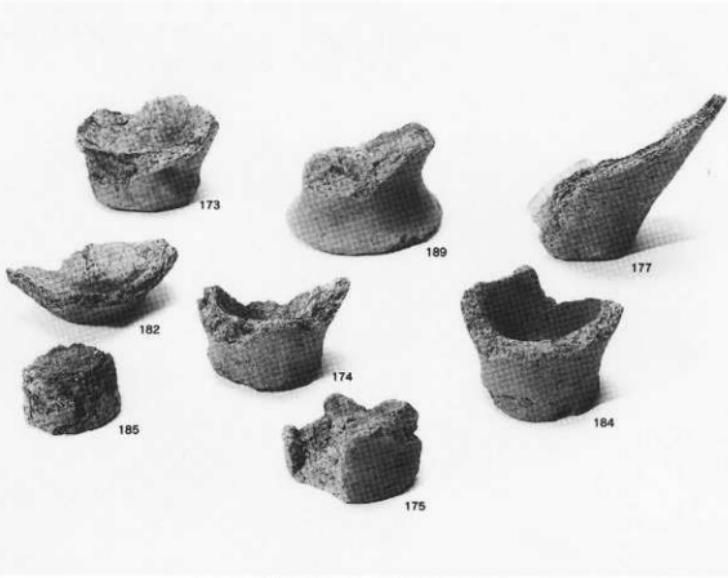
横市中原遺跡 土師器1（古墳時代、壹Ⅰ類）



横市中原遺跡 土師器2（古墳時代、壹Ⅱ類・Ⅲ類）

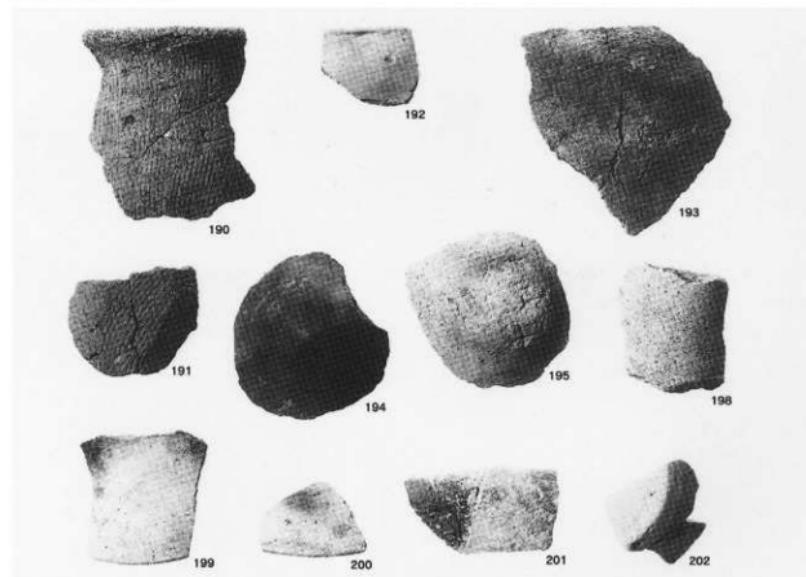


横市中原遺跡 土師器3（古墳時代、型IV類）

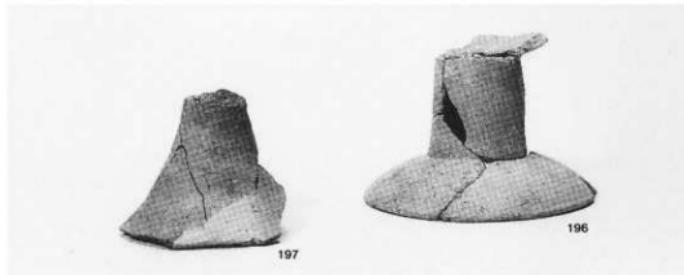


横市中原遺跡 土師器4（古墳時代、型IV類）

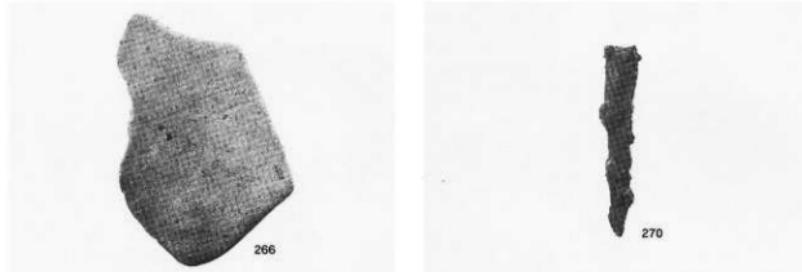
横市中原遺跡 圖版14



横市中原遺跡 土師器5（古墳時代、小型甕・壺・高坏・鉢・环）

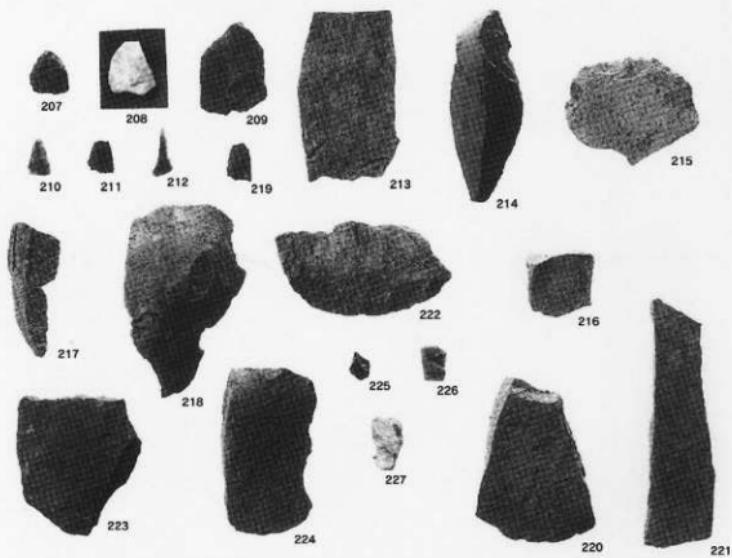


横市中原遺跡 土師器5（古墳時代、高坏）

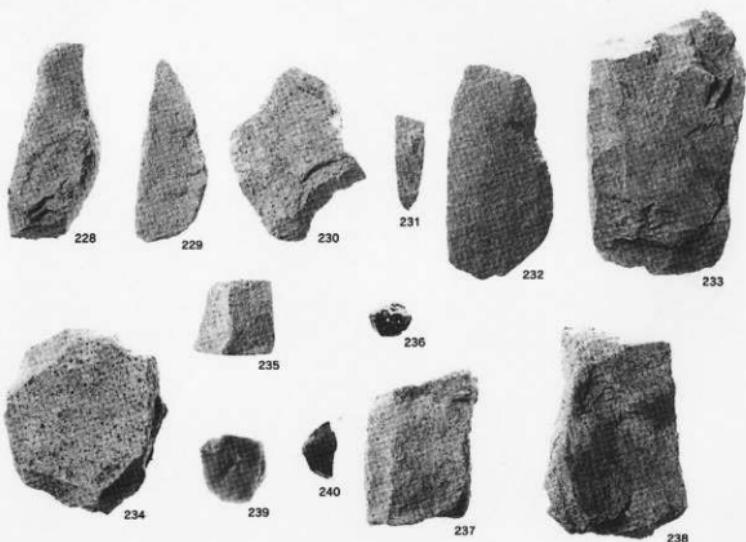


横市中原遺跡 C区出土遺物（石皿）

横市中原遺跡 A区出土鐵器（鐵鎌）

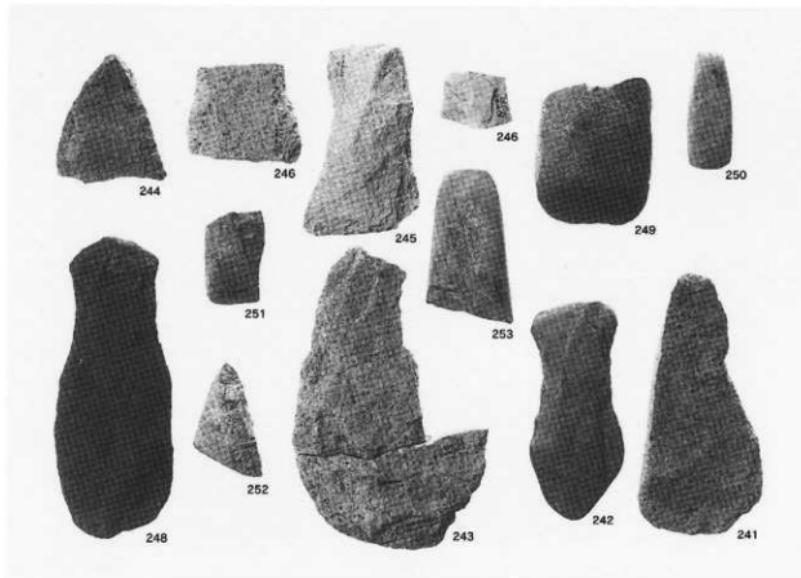


横市中原遺跡 出土石器（石錐、石錐、スクレイバー、剥片、二次加工剥片）

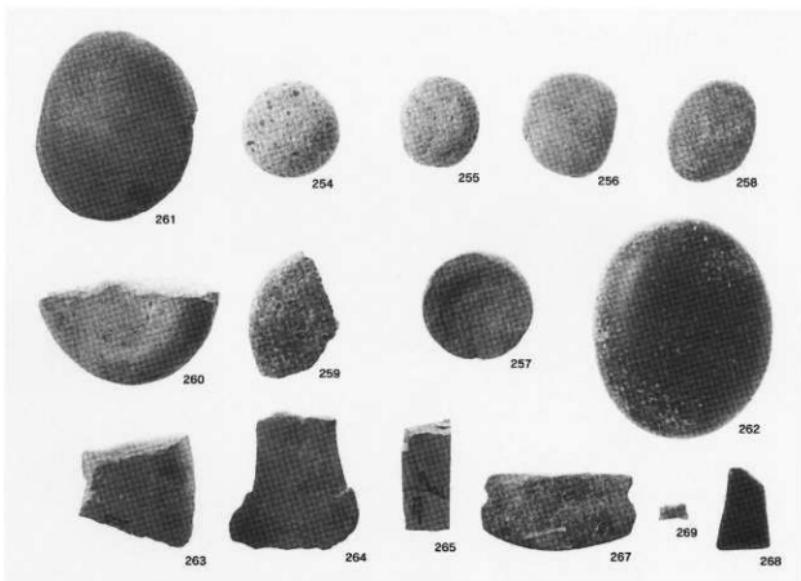


横市中原遺跡 出土石器（二次加工剥片、使用痕剥片、石核）

横市中原遺跡 図版16



横市中原遺跡 出土石器（打製石斧、磨製石斧）



横市中原遺跡 出土石器（磨石、砥石、石庖丁、擦痕ある石器、異形石器）

報告書抄録

ふりがな	うとだいさんいせき よこいちなかはらいせき					
書名	宇都第3遺跡 横市中原遺跡					
副書名	農用地総合整備事業「都城区域」農業用道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(5)					
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書					
シリーズ番号	第85集					
執筆・編集担当者名	福田泰典 久保春夫					
編集機関	宮崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒880-0212 宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地					
発行年月日	2004年2月25日					
所取遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
宇都第3遺跡	宮崎縣北諸県郡三股町 大字宮村	31°42'13" 付近	131°06'46" 付近	2002.1.21 2002.3.20	600m <sup>2</sup>	農用地総合整備 事業「都城区域」 農業用道路建設
	コード					
	市町村 遺跡番号					
	45341					
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
集落跡	古代	造状遺構 溝状遺構 獨立柱建物跡 土坑	1条 3条 4棟 2基	土師器 (布痕土器・坏・皿・壺・高台付塊・墨書き器) 須恵器 (坏・壺・壺) 土製品 (土鍵・紡錘車)	布痕土器や高台付塊、須恵器などの古代を中心とした遺物が多量に出土した。	
散布地	中世	溝状遺構	1条	陶磁器 (輪削焼鉢・天日茶碗・青磁)		
所取遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
横市中原遺跡	宮崎県都城市横市町 6423-1ほか	31°45'26" 付近	131°01'29" 付近	2002.11.13 2002.3.18	4500m <sup>2</sup>	農用地総合整備 事業「都城区域」 農業用道路建設
	コード					
	市町村 遺跡番号					
	45202					
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
集落跡	縄文時代後晩期 占墳時代	堅穴住居跡 溝状遺構 土坑 堅穴住居跡 土坑	3軒 1条 7基 2軒 3基	縄文土器 (紅鐵痕土器・刻目直蒂文土器・孔列土器・黑色磨研土器) 土師器 (壺・壺・高坏・鉢・坏)	縄文時代後晩期を中心とした土器が出土した。紅鐵痕土器・孔列文土器の存在は興味深いものがある。	
生産遺跡(岩跡)	中世	小溝状遺構	1条			

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第85集

宇都第3遺跡  
横市中原遺跡

農川地総合整備事業「都城区域」農業用道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(5)

平成16年2月

発行 宮崎県埋蔵文化財センター  
〒880-0212 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地  
TEL 0985-36-1171 FAX 0985-72-0660

印刷 北一株式会社  
〒880-0903 宮崎県宮崎市太田3丁目1-31  
TEL 0985-51-5100 FAX 0985-53-5640